

授業概要（シラバス）

科目名	憲法 (2) 単位		担当者氏名		稲貝 巖 (弁護士) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる。国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）の構成が理解でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。				
授業概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法にはどのような規定があるか確認し、様々な解釈に基づいた解説をする。				
授業 計 画 表	1	憲法と立憲主義・日本憲法史			
	2	日本国憲法の構成と基本原理			
	3	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等			
	4	精神的自由権			
	5	身体的自由権			
	6	経済的自由権			
	7	社会権			
	8	参政権と国務請求権			
	9	統治機構の基本原則			
	10	国会と立法権			
	11	内閣と行政権			
	12	裁判所と司法権			
	13	財政			
	14	地方自治			
	15	憲法改正			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「憲法」（豊岡短期大学） 「ポケット六法」「コンサイス六法」「デイリー六法」などの「六法」				

授業概要（シラバス）

科目名	情報リテラシーと処理技術 (2) 単位		担当者氏名		石丸 功 (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。				
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。				
授業 計 画 表	1	情報化社会			
	2	コンピュータの発展			
	3	ハードウェア			
	4	ソフトウェア			
	5	情報ネットワーク			
	6	インターネット			
	7	情報システムの課題			
	8	Windowsの基本操作			
	9	文書作成の基本①（書式設定）			
	10	文書作成の基本②（図形・表）			
	11	文書作成の基本③（ページ設定）			
	12	表計算の基本①（書式設定）			
	13	表計算の基本②（計算式・関数）			
	14	表計算の基本③（グラフ機能）			
	15	プレゼンテーションの基本			
成績評価基準	レポート課題、科目試験、実技試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「情報リテラシーと処理技術」（豊岡短期大学） 「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社） 「演習でまなぶ情報処理の基礎」鶴田陽和編著（朝倉書店）				

授業概要（シラバス）

科目名	健康科学 (1) 単位		担当者氏名		泉 一郎 <small>(豊岡短期大学特別招聘教員)</small>
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	日々健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身共に健康でなければならない。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は私たちの健康に多大な影響を及ぼしている。本講義ではそのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。				
授業概要	自己の体力増進や健康管理ができるとともに指導者として事故や周囲の人への運動処方について学ぶ。運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、健康な生活を送ることができるようになる。				
授業 計 画 表	1	健康な生活設計			
	2	自己管理			
	3	喫煙・飲酒が及ぼす身体への影響			
	4	運動の基礎理論			
	5	トレーニング方法			
	6	現代人の運動不足と健康管理			
	7	運動生理学① 運動と呼吸			
	8	運動生理学② 運動と筋肉			
	9	運動生理学③ 運動と神経			
	10	救急救命についての知識と対処法			
	11	運動処方			
	12	熱中症の対処法			
	13	ウォーミングアップとクールダウン			
	14	健康日本21			
	15	生活と運動 ライフスタイルと健康づくり			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「健康科学」（豊岡短期大学） 「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄監修（技術評論社） 「演習でまなぶ情報処理の基礎」鶴田陽和編著（朝倉書店）				

授業概要（シラバス）

科目名	スポーツ（実技）		担当者氏名		泉 一郎 <small>（豊岡短期大学特別招聘教員）</small>
	（ 1 ）単位		学習形態		実技
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	スポーツ（実技）授業は、スポーツ技術の獲得に終わるものではなく、健康な障害の実現を目的とするものである。主にドッジボールとポートボールという代表的なレクリエーションスポーツ種目を通して、自己の体力と健康状態を知り、日常生活の中で積極的に身体活動、スポーツやレクリエーション活動に参加できるようになることをねらいとする。				
授業概要	生涯スポーツとして必要な健康・体力づくりの実践とスポーツ・運動技術の知識を修得し、演習する。これらの知識と技術が他の運動学習でも応用できるようにする。				
授業 計 画 表	1	第1回～第2回 ガイダンスとチーム編成 ストレッチングとウォーミングアップ、クーリングダウン			
	2	器具、用具に慣れる（コートの設定、ルールの理解）、ミニゲーム、7つの巧みな動作（キャッチ、的あて、かわす、フェイント、安定な姿勢、繊細な動き、複雑な動き）の理解とその習得			
	3	第3回～第5回			
	4	ドッジボールとポートボールの基本的なルールと戦術			
	5	全身持久力、筋力、柔軟性向上に必要な体力要素のトレーニング、レクリエーションゲーム			
	6	第6回～第15回			
	7	ゲーム（ルールや戦術等の理解）			
	8	テスト			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	授業への取り組み度、集団としての行動を評価する				
使用テキスト等	「健康科学」（豊岡短期大学）				

授業概要（シラバス）

科目名	英語コミュニケーション (2) 単位		担当者氏名 加藤 圭子 (豊岡短期大学非常勤講師)	
			学習形態 演習	
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数 30 時間
授業目標	近頃では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場に必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。			
授業概要	授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基本構文の復習および練習を行う。その後、幼稚園や保育園でのさまざまな生活場면을題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。			
授業 計 画 表	1	英語の文法（1）（動詞、形容詞、副詞）		
	2	英語の文法（2）（比較、代名詞、疑問詞）		
	3	英語の文法（3）（進行形、完了形、受動詞）		
	4	英語の基礎構文（1）（5文型）		
	5	英語の基礎構文（2）（修飾語句）		
	6	英語の基礎構文（3）（接続詞、仮定法）		
	7	入園準備に必要な英語の学習		
	8	登園・降園に必要な英語の学習		
	9	室内遊びに必要な英語の学習		
	10	外遊びに必要な英語の学習		
	11	健康・病気・けがに必要な英語の学習		
	12	運動・散歩に必要な英語の学習		
	13	食事に必要な英語の学習		
	14	工作・お絵描きに必要な英語の学習		
	15	おたより・行事に日宇町名英語の学習		
成績評価基準	レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。			
使用テキスト等	「英語コミュニケーション」（豊岡短期大学） 「英和辞典」「和英辞典」を各自用意する			

授業概要（シラバス）

科目名	社会福祉論 (2) 単位		担当者氏名		菅沼 友和
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わるしくみについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 				
授業概要	<p>保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について、学び深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解していく。</p>				
授業 計 画 表	1	現代社会における社会福祉の意義	16	相談援助の対象と過程	
	2	社会福祉の理念	17	相談援助の方法と技術	
	3	社会福祉の概念	18	利用者の保護に関わる仕組み	
	4	社会福祉の歴史の変遷	19	情報提供と第三者評価	
	5	子ども家庭支援と社会福祉	20	利用者の権利擁護	
	6	社会福祉の制度と実施体系	21	苦情解決	
	7	社会福祉の制度	22	社会福祉の動向	
	8	社会福祉の法体系	23	少子高齢社会の現状	
	9	社会福祉行政と実施機関	24	少子高齢社会の子育て支援	
	10	社会福祉施設	25	共生社会の実現	
	11	社会福祉の専門職	26	障害者施策	
	12	社会保障及び関連制度の概要	27	在宅福祉・地域福祉の推進	
	13	社会福祉における相談援助	28	地域福祉の現状と展開	
	14	相談援助の理論	29	諸外国の動向	
	15	相談援助の意義と機能	30	社会福祉の課題	
成績評価基準	<p>レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。</p>				
使用テキスト等	<p>「社会福祉論」（豊岡短期大学） 「保育所保育指針」（フレーベル館） 「保育・社会福祉小六法」（みらい）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	こども家庭福祉 (2) 単位		担当者氏名		中村 直美 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権養護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
授業概要	子ども家庭福祉の意義と歴史、権利擁護、それに係る制度や実施体系等について理解する。また、子ども家庭福祉の現状と課題について、少子化対策や虐待防止、貧困家庭や外国籍の子どもや家庭への対応等の視点で理解する。				
授業 計 画 表	1	現代社会における子ども家庭福祉	16	少子化と地域子育て支援	
	2	子ども家庭福祉の意義	17	母子保健と子どもの健全育成	
	3	子ども家庭福祉の理念と概念	18	多様な保育ニーズへの対応	
	4	子ども家庭福祉の歴史の変遷	19	子ども虐待・DVとその防止	
	5	現代社会と子ども家庭福祉	20	社会的養護	
	6	子どもの人権擁護	21	障害のある子どもへの対応	
	7	子どもの人権擁護の歴史の変遷	22	少年非行等への対応	
	8	児童の権利に関する条約	23	貧困家庭への対応	
	9	子どもの人権擁護と現代社会における課題	24	外国籍の子どもと家庭への対応	
	10	子ども家庭福祉の制度	25	子ども家庭福祉の動向	
	11	子ども家庭福祉の制度と法体系	26	次世代育成支援	
	12	子ども家庭福祉の実施体系	27	子ども家庭福祉の推進	
	13	児童福祉施設	28	地域における連携・協働	
	14	子ども家庭福祉の専門職	29	諸外国の動向	
	15	こども家庭福祉の現状と課題	30	子ども家庭福祉の展望	
成績評価基準	レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、 科目試験の結果により判定し総合評価をする。				
使用テキスト等	「こども家庭福祉」(豊岡短期大学) 「保育所保育指針」(フレーベル館) 「保育・社会福祉小六法」(みらい)				

授業概要（シラバス）

科目名	保育原理 (2) 単位		担当者氏名 齋藤 裕 (新潟県立大学教授)	
			学習形態 講義	
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数 30 時間
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。			
授業概要	保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質のあり方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。			
授業 計 画 表	1	保育の意義と目的	16	保育の環境・方法
	2	保育の理念と概念	17	子どもの健康と安全と保育計画
	3	子どもの最善の利益と保育	18	保護者に対する支援
	4	保護者との協働	19	保育士の専門性
	5	保育の社会的役割と責任	20	保育の質を高めるために
	6	子ども家庭福祉と保育	21	生活と遊びを通して総合的に行う保育
	7	保育に関する法令及び制度	22	保育における個と集団への配慮
	8	法体系における保育の位置づけと関係法令	23	保育の制度 保育所
	9	子ども・子育て支援新制度	24	保育の制度 幼稚園・認定こども園
	10	保育の実施体系	25	保育の制度 家庭的保育事業
	11	保育所保育指針における保育の基本	26	保育の思想と歴史的変遷
	12	保育所保育指針	27	諸外国の保育の思想と歴史
	13	保育における養護	28	日本の保育の思想と歴史
	14	保育の目標	29	諸外国の保育の現状
	15	保育の内容	30	日本の保育の現状と課題
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。			
使用テキスト等	「保育原理」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			

授業概要（シラバス）

科目名	保育者論 (2) 単位		担当者氏名		齋藤 裕 (新潟県立大学教授)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育者の役割と倫理について理解する。 保育士の制度的な位置づけを理解する。 保育士の専門性について考察し、理解する。 保育者の連携・協働について理解する。 保育士の資質向上とキャリア形成について理解する。				
授業概要	保育者としてのあるべき姿とその実際について、保育士の制度的位置づけ、 保育者としての専門的成長、保育者の役割と倫理等について、具体的事例を とおして理解が深まるように学ぶ。				
授業 計 画 表	1	保育者論とは			
	2	保育者とはどのような職業であるか			
	3	魅力的な保育者とは			
	4	保育者という仕事と倫理			
	5	多様なニーズ、さまざまな保育の仕事 幼稚園			
	6	多様なニーズ、さまざまな保育の仕事 保育所			
	7	幼稚園における保育者の役割			
	8	保育園における保育者の役割			
	9	保育士の専門性について			
	10	保育者の連携・協働			
	11	保育者の資質向上とキャリア形成			
	12	資質向上に関する組織的取り組み			
	13	保育者の成長・学びあう関係づくり			
	14	組織とリーダーシップ			
	15	まとめと今後の課題			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「保育原理」（豊岡短期大学） 配布プリント 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	社会的養護Ⅰ (2) 単位		担当者氏名		中村 直美 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 				
授業概要	望ましい保育者となるために、社会的養護に関する基本的な知識、専門性、人間性など身に付けなければならないこと等について学ぶ。				
授業 計 画 表	1	社会的養護の理念と概念			
	2	社会的養護の歴史の変遷			
	3	現代社会における社会的養護の意義			
	4	こどもの人権擁護と社会的養護			
	5	社会的養護の基本原則			
	6	社会的養護における保育士等の倫理と責務			
	7	社会的養護の制度と法体系			
	8	社会的養護の仕組みと実施体系			
	9	社会的養護の対象			
	10	家庭養護と施設養護			
	11	社会的養護に関わる専門職			
	12	社会的養護に関する社会的状況			
	13	施設等の運営管理			
	14	被措置児童等の虐待防止			
	15	社会的養護と地域福祉			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「社会的養護」（豊岡短期大学） 「保育・社会福祉小六法」（みらい） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	教育原理 (2) 単位		担当者氏名		湯本 正明 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	教育の思想とその作用、わが国の教育制度・理念・歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。				
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。				
授業 計 画 表	1	教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性			
	2	世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践			
	3	世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践			
	4	日本の教育思想			
	5	子どもの発達と教育			
	6	子どもの権利			
	7	制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園			
	8	内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園			
	9	世界における教育の歴史的変遷			
	10	日本における教育の歴史的変遷			
	11	公教育制度、義務教育制度			
	12	教育という仕事、教授法			
	13	教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化			
	14	教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング			
	15	教育における教育的課題③学校外との連携			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。				
使用テキスト等	「教育原理」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどものこころと発達 (発達心理学) (2) 単位		担当者氏名		小森 智子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を修得し、子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性についての基礎知識を習得し、保育における人との関わりや体験、環境の意義を理解する。				
授業概要	発達心理学の定義および発達心理学にかかわる基本的な用語の解説、生涯にわたる発達についての概要を示す。特に乳幼児期については、発達の知見に加え、学習の意義や実践的な保育への活用法について併せて検討する。				
授業 計 画 表	1	発達心理学の定義	16	身体的機能と運動機能の発達	
	2	発達心理学で学ぶ内容	17	社会情緒的発達	
	3	こどもの発達を理解する	18	言語の発達	
	4	こどもの発達と環境	19	自己認識や社会性の拡張	
	5	遺伝説、環境説、複合説	20	児童期・青年期の発達	
	6	発達理論とこども観・保育観	21	アイデンティティの確立	
	7	ピアジェの発生的認識論	22	成人期の発達	
	8	認知発達段階	23	現代社会からみる青年期の課題	
	9	発達心理学とこども理解	24	壮年期・老年期の発達	
	10	エリクソンの発達理論	25	生涯発達心理学	
	11	生涯発達の基礎	26	発達心理学と教育学の関連	
	12	乳幼児の発達	27	発達心理学の保育への活用	
	13	反射と表象の形成	28	乳幼児期の遊びに関わる理論	
	14	愛着の形成と発達	29	乳幼児期の学びの過程と特性	
	15	児童期の発達	30	乳幼児期の学びを支える保育	
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「発達心理学」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「人間関係」		担当者氏名		小林 智子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて説明できる。 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p>				
授業概要	<p>領域「人間関係」のねらいや内容、内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説する。保育者としてどのようにこどもの人とかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を気付いていくのか、様々な関係性について考察する。</p>				
授業 計 画 表	1	領域「人間関係」のねらいと内容およびその取扱い			
	2	保育者としての役割			
	3	保育者としての環境づくりと評価			
	4	保育構想と指導案（模擬保育）			
	5	対人意識、自己概念の発達			
	6	自己理解と他者理解を支える保育者の工夫			
	7	個と集団の育ちの姿			
	8	こどもの心の拠り所である保育者の工夫			
	9	人とかかわりと子どもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫			
	10	集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫			
	11	こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫			
	12	こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点			
	13	こども同士を結びつける保育者の遊びの役割と保育計画			
	14	情報機器を活王した保育計画、指導案			
	15	地域との関わりを導く保育計画、小学校との交流を導く保育計画			
成績評価基準	<p>受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：演習に対するワークシートにより評価する 単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「言葉」		担当者氏名		若本 久美子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	乳幼児の言葉の獲得について理解し、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。乳幼児期の言葉の重要性を文字体験活動も加え役割を認識する。こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても総合の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。				
授業 計 画 表	1	言葉とは何か 生活と言葉			
	2	領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり			
	3	領域「言葉」指導上の留意点と評価			
	4	0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み			
	5	言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法			
	6	言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育			
	7	言葉から文字へ、文字による環境			
	8	文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の製作、模擬保育体験			
	9	言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援			
	10	外国のこどもとの対応			
	11	言語教材としての絵本の意義			
	12	絵本とデジタル教材と保育現場の実際および言語教材を用いた指導案の作成			
	13	絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について			
	14	絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育			
	15	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携			
成績評価基準	受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：演習に対するワークシートにより評価する 単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 保育内容 実践と研修シリーズ「ことばからの育ち」／村石昭三／フレーベル館				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「リズム表現」 (1) 単位		担当者氏名		小林 智子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識を併せて習得する。表現に関する知識や保育技術の習得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。				
授業概要	領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう指導援助者としてのあるべき姿を追求していく。				
授業 計 画 表	1	領域「表現」についての基本的な考え方			
	2	領域「表現」の指導において求められる捉え方 小学校教科とのつながり			
	3	基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点			
	4	幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解			
	5	幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践			
	6	観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践			
	7	タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解			
	8	幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践			
	9	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作と活用			
	10	指導案製作の基礎 オリジナル楽器を使った指導案の作成			
	11	オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について			
	12	領域「表現」と小学校教科等のつながり			
	13	表現する力を育てるための保育者の役割と援助			
	14	絵本のストーリーを入れた模擬保育の実践と振り返り			
	15	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り			
成績評価基準	受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：演習に対するワークシートにより評価する 単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「1～5歳のかんたんリトミック」神原雅之著（ナツメ社）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもと造形 (1) 単位		担当者氏名		古川 聖子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容に基づいた保育の基本を理解する。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形表現を理解する。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術を習得する。				
授業概要	子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を学び、身近な自然や物の色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境を理解し、様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開の技術を学ぶ。				
授業 計 画 表	1	幼児造形教育の重要性			
	2	発達段階を踏まえた造形教育研究の視点			
	3	幼児造形表現の特徴と領域			
	4	えがく領域 製作Ⅰ えがく活動における指導			
	5	えがく領域 製作Ⅱ えがく活動における援助と実際			
	6	つくる領域 製作Ⅰ つくる活動における指導			
	7	つくる領域 製作Ⅱ つくる活動における援助と実際			
	8	造形あそびの領域 製作Ⅰ 造形遊びにおける指導			
	9	造形あそびの領域 製作Ⅱ 造形遊びにおける援助と実際			
	10	えがく活動における教材研究			
	11	つくる活動における教材研究			
	12	造形あそびの活動における教材研究			
	13	教材研究における発表の視点			
	14	幼児造形教育の課題について			
	15	まとめ			
成績評価基準	受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：素材を生かした作品製作・技術力・工夫・教材研究および発表内容 単位認定試験：基礎知識・造形活動における指導および援助方法について論じられているか				
使用テキスト等	「こどもと造形Ⅰ」「こどもと造形表現Ⅰ」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「音楽表現」		担当者氏名		齋藤 淳子、鈴木 至門 (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。				
授業概要	領域「表現」は乳児期の終わりまでに育てほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。				
授業計画表	1	領域「表現」における目標と「ねらい」「内容」の理解	16	生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践	
	2	表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践	17	指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方	
	3	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解	18	模擬保育に使用する歌や曲の選曲、教材研究とその伴奏	
	4	表現活動における伴奏の方法と実践	19	指導案作成における環境構成及び保育者の援助と模擬保育	
	5	身近にある音風景「自然の音」「身の回りの」音への気づきと表現	20	模擬保育に使用する歌や曲の教材けんきゅうと伴奏法の実践	
	6	サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現、伴奏法	21	模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案	
	7	声の仕組み、「歌う」表現活動の理解	22	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	
	8	乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法	23	模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案	
	9	0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	24	模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践	
	10	乳児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法	25	模擬保育「身近な素材を生かして楽器あそび」の実践と指導案	
	11	3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	26	模擬保育での弾き歌い及び楽器遊びの教材研究と伴奏法の実践	
	12	幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法	27	「音楽の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解	
	13	「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践	28	保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践	
	14	「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法	29	小学校1年生 教科「音楽」への接続	
	15	領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用	30	保幼小連携にともなう学びの連続性についての理解のまとめ	
成績評価基準	<p>受講態度、課題：保育者という専門職を目指す者として、その学ぶ姿勢が明確な目的意識を持ったものかどうか、模擬保育・実践課題への積極的参加とその内容を基準とする。</p> <p>単位認定試験：授業の振り返りから学習課題、今後の学習目標を明確にする。</p>				
使用テキスト等	<p>「こどもの指導法「音楽表現」」、「音楽表現論」（豊岡短期大学）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	教育方法論 (2) 単位		担当者氏名		藤部 仁 (元小学校校長) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との官益性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。				
授業概要	教育方法の定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのか考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、機材・教具についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。				
授業 計 画 表	1	教育方法の定義・意義と守備範囲			
	2	教育方法の歴史的展開1（西欧の教育方法）			
	3	教育方法の歴史的展開2（近・現代の教育方法）			
	4	教育方法の歴史的展開3（日本の教育方法）			
	5	教育技術の革新と情報機器の活用			
	6	教材・教具の理解と活用			
	7	特色ある授業実践			
	8	教育現場における授業技術			
	9	授業分析と授業評価			
	10	授業展開の構想			
	11	幼児の理解と幼児教育（保育）の方法			
	12	近代以降の幼児教育（保育）方法			
	13	幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
	14	幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容			
	15	教育方法の課題と展望			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。				
使用テキスト等	「教育方法論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	表現とこどもの運動 (1) 単位		担当者氏名		松本 貴子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	子どもたちが自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解説明し身に付ける。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通して子ども同士がどう工夫し、表現し、仲間とより良くなかかわっていくことができるかを発達段階に沿って展開させることを学ぶ。子どもが楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。				
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びの運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。				
授業 計 画 表	1	運動遊びのねらい			
	2	運動遊びの援助			
	3	身体・形態・機能・こころの発育発達			
	4	こどもと運動			
	5	運動遊びの基本的な動き① 基本運動			
	6	運動遊びの基本的な動き② 運動表現の要素			
	7	身体コントロール能力の向上			
	8	刺激に反応する運動			
	9	こどもの表現運動Ⅰ① 教育的意義			
	10	こどもの表現運動Ⅰ② 身体表現運動とは			
	11	こどもの表現運動Ⅱ① 身体表現運動のねらい			
	12	こどもの表現運動Ⅱ② 実施上の留意点			
	13	年齢別発達における表現遊び			
	14	手遊びとリズム表現			
	15	表現運動における安全指導			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する 科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「造形表現論」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	造形表現論 (1) 単位		担当者氏名		堀田 正 (元長岡造形大学教授)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。				
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現・つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。				
授業 計 画 表	1	「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習			
	2	こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義			
	3	こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴			
	4	えがく、つくる、造形遊びの指導、援助、評価			
	5	えがく活動における形態・色彩の理論			
	6	絵画技法、製作内容と材料・用具			
	7	つくる活動における技法と活用			
	8	つくる活動の素材（廃材）			
	9	つくる活動の製作内容と材料・用具			
	10	造形あそびにおける各種表現技法			
	11	造形あそびにおける製作内容と材料・用具			
	12	実践的な指導法の学習			
	13	情報機器及び教材の活用			
	14	教材研究① えがく、つくる活動			
	15	教材研究② 造形あそび			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する 科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「造形表現論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	音楽表現論 (1) 単位		担当者氏名		鈴木 至門 (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門知識・技能・表現力を身に付ける。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的スキルを身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、具体的な方法を習得する。				
授業 計 画 表	1	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程			
	2	音楽表現の基礎知識			
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解			
	4	乳幼児の発達に伴う声域についての理解			
	5	イメージを表現するための音や音階の理解			
	6	日本のこどもの歌と歴史的背景の理解			
	7	童謡の分析			
	8	身体、言葉の中のリズムの理解と実践			
	9	保育実践における援助			
	10	幼児用楽器の取り扱いと演奏			
	11	身近な音を見つけて遊ぼう			
	12	保育現場に応じた音楽			
	13	家庭と園生活における音楽表現活動			
	14	小学校に繋がる学び			
	15	器楽演奏を表現豊かなものにするために			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現にあり判定し評価する 科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「音楽表現論」 (豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」 (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅰ（ピアノ実技）		担当者氏名		鈴木 至門 （豊岡短期大学非常勤講師）
	（ 1 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	バイエル62番から102番までを読譜し、演奏できる技術の習得 小学校歌唱曲や子どもの歌の弾き歌いができる技術の習得				
授業概要	ピアノを活用した教科内容や保育内容に対応できるように、音階や音符の知識を学びピアノや鍵盤ハーモニカ等の指導ができるようになるために基礎的なピアノ穂湧現の技術を身に付ける				
授業 計 画 表	1	オリエンテーション 課題曲の提示と読譜の基本			
	2	指使いの基本			
	3	初歩的な右手の曲の演奏			
	4	左手の運指の基本			
	5	初歩的な両手を使った曲の演奏			
	6	各自の習得状況に応じた課題曲の選曲			
	7	大譜表の読譜と指番号に基づいた指の動き			
	8	バイエル62番の練習			
	9	ソルフェージュ25番の練習			
	10	バイエル100番の練習			
	11	バイエル102番の練習			
	12	ソルフェージュ54番の練習			
	13	ソルフェージュ55番の練習			
	14	せんせいとおともだちの弾き歌い練習			
	15	課題曲の発表			
成績評価基準	実技試験により評価する				
使用テキスト等	豊岡短期大学「こどもと音楽表現」 「こどものうた200」チャイルド本社				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの発達と家庭支援 (2) 単位		担当者氏名		高橋 桂子 (実践女子大学教授)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題等について理解する。 2. 家族・課程の意義や機能を理解し、親子関係や家庭関係等について理解する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
授業概要	生涯発達に関する心理学の基礎を修得するとともに、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等を発達の視点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を身に付ける。併せて子育て家庭に係る課題を理解する。				
授業 計 画 表	1	生涯発達とは	16	子育てを取り巻く社会的状況	
	2	乳幼児期の発達	17	ライフコースと子育て	
	3	乳幼児期から学童期前期の発達	18	多様な家庭とその理解	
	4	学童期前期から学童期後期の発達	19	地域の子育て家庭への支援	
	5	学童期後期から青年期の発達	20	特別な配慮を要する家庭	
	6	成人期・老年期における発達	21	地域社会の変容と家庭支援	
	7	家族・家庭の理解	22	子どもの精神保健	
	8	家族・家庭の意義	23	子どもの生活・生育環境	
	9	家族・家庭の機能	24	生育環境による影響	
	10	親子関係・家族関係の理解	25	子どもの心の健康	
	11	子育ての経験と親としての育ち	26	子どもの心の健康に関わる諸問題	
	12	現代の家庭における人間関係	27	保育士が行う家庭支援	
	13	子育て家庭の現状	28	子育て福祉の社会資源	
	14	子育て家庭の支援体制	29	子育て支援政策	
	15	子育て支援サービス	30	子育て家庭の現状と課題	
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、 科目試験の結果により判定し総合評価をする。				
使用テキスト等	「こどもの発達と家庭支援」（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」				

授業概要（シラバス）

科目名	保育の計画と評価 (2) 単位		担当者氏名		小林 智子、古川 聖子 (保育士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成についてその意義と方法を理解する。 子どもの理解に基づく計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を捉え、理解する。</p>				
授業概要	<p>子どもを育てるうえで、大切なこと（目標）、どのような方法・手だて（方針）、 どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。 幼児教育・保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割を明らかにする。</p>				
授業 計 画 表	1	教育・保育における計画と評価の意義			
	2	カリキュラムの基礎理論			
	3	計画、実践、記録、省察・評価、改善の過程の循環及び子ども理解による保育の質の向上			
	4	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育計画			
	5	教育課程および全体的な計画等の編成の実際			
	6	教育・保育の指導計画の作成にあたって			
	7	指導計画作成上の留意事項			
	8	長期的な指導計画の編成			
	9	短期的な指導計画の編成			
	10	指導計画を立てる時の基本の考えと立案			
	11	指導計画をもとにした模擬保育の展開			
	12	教育・保育の記録と省察			
	13	生活と発達の連続性をふまえた要録			
	14	教育・保育実践の評価			
	15	教育・保育の改善			
成績評価基準	<p>レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、 科目試験の結果により判定し総合評価をする。</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	保育内容総論 (1) 単位		担当者氏名		古川 聖子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育の場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう具体的な事例をもとに実践を通して学ぶ。				
授業 計 画 表	1	保育の全体的構造① 育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿			
	2	保育の全体的構造② 領域の考え方と乳児保育の領域			
	3	保育内容の歴史的変遷① 変遷にみる特徴			
	4	保育内容の歴史的変遷② 変遷にみる課題			
	5	養護と教育の一体的展開 養護的なかかわりと教育的なかかわり			
	6	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容① 園行事の意味と在り方			
	7	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容② 保幼小の円滑な連携			
	8	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開① 環境を通して行う保育			
	9	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開② 遊びによる総合的な保育			
	10	全体的な計画の作成と指導計画の作成① 全体的な計画の作成			
	11	全体的な計画の作成と指導計画の作成② 指導計画の作成手順と配慮			
	12	保育の評価と保育の記録① 幼児理解に基づく評価			
	13	保育の評価と保育の記録② 観察記録を書く意味と幼児理解			
	14	保育内容の現代的課題について① 子育て支援			
	15	保育内容の現代的課題について② 多文化共生保育			
成績評価基準	受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：グループワークでの発表内容を基準とする 単位認定試験：授業の内容を踏まえ、本質に根差した論文を書くことができるかどうかを基準とする				
使用テキスト等	「保育内容総論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「造形表現」		担当者氏名		坂井 邦晃 (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。				
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形遊び」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験と関連づけながら学習を深める。				
授業 計 画 表	1	領域「表現」について			
	2	小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領）			
	3	造形教育の思想と指導法の推移			
	4	こどもの発達段階における表現の特徴			
	5	こどもの発達段階における表現の指導			
	6	こどもの発達段階における表現の指導案と評価			
	7	教材研究を伴う製作（えがく）①			
	8	教材研究を伴う製作（えがく）②			
	9	教材研究を伴う製作（つくる）①			
	10	教材研究を伴う製作（つくる）②			
	11	教材研究を伴う製作（造形遊び）①			
	12	教材研究を伴う製作（造形遊び）②			
	13	実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形遊び）			
	14	えがく、つくる、造形あそびの保育展開			
	15	情報機器及び教材の活用 まとめ			
成績評価基準	受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：演習に対するワークシートにより評価する 単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	乳幼児保育Ⅰ (2) 単位		担当者氏名		岩本 久美子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳幼児院等様々な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容と運営体制を理解する。 4. 職員間の連携・協働及び保護者や地域関係機関との連携を理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学びその意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授業 計 画 表	1	乳幼児保育の意義・目的	16	3歳未満児の遊び	
	2	乳幼児保育の歴史的変遷	17	3歳未満児の遊びと環境	
	3	乳幼児保育の役割と機能	18	3歳以上児保育への移行期	
	4	乳幼児保育における養護	19	3歳未満児の発育	
	5	乳幼児保育における教育	20	保育士による援助	
	6	家庭支援の社会的状況	21	発育・発達をふまえた配慮	
	7	家庭支援の課題	22	乳幼児保育における計画	
	8	保育所における乳幼児保育	23	乳幼児保育における記録	
	9	児童福祉施設における乳幼児保育	24	乳幼児保育における評価	
	10	家庭的保育等における乳幼児保育	25	乳幼児保育における連携・協働	
	11	3歳未満児	26	職員間の連携・協働	
	12	3歳未満児の家庭支援	27	保護者との連携・協働	
	13	3歳未満児の子育て支援の場	28	自治体との連携・協働	
	14	3歳未満児の生活	29	地域関係機関等との連携・協働	
	15	3歳未満児の生活と環境	30	これからの乳幼児保育	
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「乳幼児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	教育心理学 (2) 単位		担当者氏名		益谷 真 (敬和学園大学教授) 藤原 健志 (新潟県立大学准教授)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	(1) 心身の発達の概念及び教育における発達の理解の意義を理解する (2) 運動・言語・認知・社会性の発達について具体的な内容を理解する (3) 学習の形態、概念やその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する (4) 主体的学習を支える在り方を発達の特徴と関連付けて理解する (5) 心身の発達を踏まえ主体的な学習活動の指導の基礎を理解する				
授業概要	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達の特徴や遊びを通じた変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。				
授業 計 画 表	1	教育心理学を学ぶ意義			
	2	発達の考え方とその理解			
	3	学習の仕組み			
	4	主体的な学習を支える「やる気」			
	5	集団での学習とその評価			
	6	動機付けからみる発見学習の仕組み			
	7	教育心理学に基づく保育実践			
	8	発達課題に応じたかかわり			
	9	子どもから大人への思考様式の変化			
	10	学びを支える記憶			
	11	子どもの学びの姿			
	12	子どものやる気を引き出す指導の在り方			
	13	子どもの遊びの重要性			
	14	子どもと道徳			
	15	教育心理学を用いた環境づくり			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果、演習授業により判定し総合評価をする。				
使用テキスト等	「教育心理学」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	言語とこどもの文化		担当者氏名		佐藤 忠弘 (元中学校校長) (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえたうえで、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。				
授業概要	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期に繋がる言葉について理解を深める。				
授業 計 画 表	1	人間とことば、幼児とことば			
	2	乳幼児期のことばの発達と保育者の役割			
	3	保育所保育指針			
	4	幼稚園教育要領			
	5	児童文化財とは			
	6	絵本			
	7	紙芝居			
	8	おはなし			
	9	ペープサート			
	10	シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）			
	11	ことばに対する感覚を養う児童文化財			
	12	わらべうたあそび、ことばあそび			
	13	ことばを育む教材			
	14	ことばを育む教材の範囲			
	15	ことばを育む教材研究			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現にあり判定し評価する 科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「言葉とこどもの文化」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	人間関係論 (1) 単位		担当者氏名		小林 智子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身に付ける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。				
授業 計 画 表	1	領域「人間関係」			
	2	人間関係のねらいと内容			
	3	人間関係と取り巻く社会環境① 少子化			
	4	人間関係と取り巻く社会環境② 家族の変化			
	5	人間関係と取り巻く社会環境③ 身近な環境の変容			
	6	人間関係と取り巻く社会環境④ メディアの変化			
	7	規範意識と道徳性の芽生え			
	8	ルール、決まり事の意味と意義			
	9	自立心、協同性の芽生え			
	10	自己発揮と自己抑制の芽生え			
	11	遊びの中で育つ乳児の人間関係			
	12	遊びの中で育つ幼児の人間関係			
	13	人間関係とこどもの生活			
	14	家庭や地域とのかかわりとこどもの発達			
	15	今日的な人間関係の課題			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現にあり判定し評価する 科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	「人間関係論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	教職論		担当者氏名		佐藤 忠弘 (元中学校校長) (豊岡短期大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	教職者に求められる資質能力や教職のあり方などの基本的事項について理解し、時代の変化に対応した教員養成のあり方を理解し、教員に求められる専門性について論じることができる。				
授業概要	教職者の資質、専門性、制度的位置づけ、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助のあり方、教職者間の協同、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などを学ぶ。教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。				
授業 計 画 表	1	教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何か			
	2	教職（保育）者に求められる資質・能力			
	3	教員（保育者）養成の歴史			
	4	教職（保育）者資質と役割			
	5	指導計画（保育のねらい・内容）			
	6	教職（保育）者の仕事・義務・研修			
	7	教職（保育）者の職場環境			
	8	教職者の制度的な位置づけ			
	9	教職者の任用と服務			
	10	教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）			
	11	教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携			
	12	教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割			
	13	職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）			
	14	今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）			
	15	よい教職者（保育者）になるために（教育実習の心構え）			
成績評価基準	レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、科目試験の結果により判定し総合評価をする。				
使用テキスト等	「教職論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習Ⅰ (4) 単位		担当者氏名		小林 智子、古川 聖子 (保育士)
			学習形態		実習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	180 時間
授業目標	保育実習、施設実習を通し保育所・施設の役割を学び、こどもや入所者と接するなかで、保育者の職務と倫理について理解する。				
授業概要	保育実習Ⅰ（保育所）90時間、保育実習Ⅰ（施設）90時間の実習を行う。保育所では生活を体験する中で、保育所の機能、保育士の役割、保育の基本について学ぶ。施設では生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や生活の流れを知り、子ども・利用者を理解し援助の仕方、施設保育士の職務について理解する。				
授業 計 画 表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園により評価 90時間以上の実習を行い、実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。				
使用テキスト等	豊岡短期大学実習簿				

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習指導Ⅰ		担当者氏名		小林 智子、古川 聖子 (保育士)
	(2) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の流れと実習上の留意点を理解する。 3. 実習課題の設定の仕方・保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。				
授業概要	実習の意義を理解し、学校での今までの学びを使いながら、どのようにこどもを支援していくか演習を通して考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立てる。保育指導案の書き方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。				
授業 計 画 表	1	実習の意義・目的			
	2	保育所とは何か			
	3	新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
	4	保育所を構成する職員と職種間の連携			
	5	社会人としてのマナー			
	6	乳幼児の年齢別発達の特徴			
	7	緊急時の対応 事故を防ぐ留意点			
	8	観察実習、参加実習、責任実習			
	9	実習簿の書き方と保育指導案の立て方			
	10	絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノ等保育技術の利用			
	11	児童福祉施設の種別及び特徴、多職種及び他機関との連携			
	12	社会的養護の原理・原則及び支援の留意点			
	13	プライバシーの保護と守秘義務など保育者の倫理			
	14	実習の目標や実習課題の設定			
	15	実習の総括と新たな課題・自己目標			
成績評価基準	授業内での関心・意欲・思考力・判断力・提出物を総合的に評価する				
使用テキスト等	「保育実習指導」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	生命倫理 (2) 単位		担当者氏名		南雲茂 (元小学校教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	生命倫理・医療倫理の分野の議論を紹介しながら医療の現場で生じているさまざまな問題についての理解を深める。生命についての基礎知識を学び、倫理的、社会的観点からの多様な問題の捉え方を学ぶ。				
授業概要	「生と死」の問題に焦点を当て、「脳死・臓器移植」「安楽死・尊厳死」「生殖補助医療（不妊治療、代理母問題、出生前診断）」等をテーマとする。				
授業 計 画 表	1	生命倫理学とは何か			
	2	安楽死・尊厳死の現状と問題点			
	3	QOLとSOL			
	4	生命倫理と自己決定権			
	5	終末期医療とケア			
	6	脳死判定			
	7	臓器移植			
	8	臓器移植の諸問題			
	9	脳死と臓器移植の事例検討			
	10	生殖補助医療 不妊治療と体外受精			
	11	生殖補助医療 出生前診断と産み分け			
	12	遺伝子時代と優生思想			
	13	遺伝と環境			
	14	エンハンスメントの倫理学			
	15	まとめ			
成績評価基準	レポート、科目試験				
使用テキスト等	姫路大学『倫理学』				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの保健 (2) 単位		担当者氏名		中村 直美 (看護師、元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 				
授業概要	<p>子どもの成長発達の特徴を理解し、その過程でおこる心身の疾病を理解する。保育者として子どもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践力を高める。事故や感染等の安全管理について、予防対策の取り組みについても学ぶ。さらに、保育における安全管理について理解を深め、関係機関との連携についても学ぶ。</p>				
授業 計 画 表	1	子どもの心身の健康と保健の意義	16	子どもの生活習慣と病気	
	2	こどもの健康と生活	17	日常よくみる症状の対応	
	3	生命の保持と情緒の安定	18	感染症の症状と対応	
	4	健康の概念と健康指標	19	アレルギーのある子ども	
	5	現代社会における子どもの健康	20	体調不良の子どもの対応	
	6	地域における保健活動	21	健康状態の観察	
	7	児童虐待の理解と防止	22	心身の不調等の早期発見	
	8	こどもの発達と発育の特徴	23	発育・発達の把握と健康診断	
	9	障がいのある子どもと家庭支援	24	気になる子どもへの対応	
	10	生理機能の発達と保健	25	保護者との情報共有	
	11	予防接種の種類・効果	26	疾病の予防と適切な対応	
	12	保育環境の衛生管理	27	救急処置・救急蘇生法の理解	
	13	安全対策と危機管理	28	災害時の危機管理	
	14	家庭・専門機関・地域との連携	29	病児後保育の対応	
	15	保育所保育指針等における小児保健	30	家族と連携施設との協働	
成績評価基準	レポート課題における専門知識の理解、科目試験の結果により評価する。				
使用テキスト等	<p>「こどもの保健」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの健康と安全 (1) 単位		担当者氏名		中村 直美 (看護師、元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うこととする。				
授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態にあった配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。				
授業 計 画 表	1	領域「健康」の意味			
	2	保育の意義と児童観			
	3	子ども理解			
	4	乳幼児の心身の発達			
	5	発達過程に応じた保育			
	6	子どもの心の健康			
	7	こころの発達とストレスのサイン			
	8	子どもの健康と虐待			
	9	基本的生活習慣の獲得			
	10	食育と健康との関わり			
	11	子どもの遊びの発達と健康			
	12	幼児の遊びを引き出す環境づくり			
	13	安全管理と安全教育			
	14	健康と自然環境			
	15	保育内容「健康」のまとめ			
成績評価基準	受講態度、課題（ワークシート、プレゼンテーション）、単位認定試験から評価し60点以上を合格とする。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの食と栄養 (2) 単位		担当者氏名		飯井 直子（管理栄養士）（姫路大学非常勤講師） 小川 裕美子
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護と教育の一体性を踏まえ食育の意義・基本的考え方・内容等を理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。				
授業概要	人が人間らしく生きていくために何をどのように食べると良いのか食と栄養の基本を理解し身に付ける。身に付けた知識を、子どもにどのようにわかりやすく伝えるかを考え、実践的に学ぶ。				
授業 計 画 表	1	子どもの心身の健康と食生活			
	2	子どもの食生活の現状と課題			
	3	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能			
	4	食事摂取基準と献立作成・調理の基本			
	5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活			
	6	幼児期の心身の発達と食生活			
	7	学童期の心身の発達と食生活 生涯発達と食生活			
	8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方			
	9	食育の内容と計画及び評価			
	10	食育のための環境			
	11	地域の関係機関や職員間の連携			
	12	食生活指導及び食を通じた保護者への支援			
	13	家庭、児童福祉施設における食事と栄養			
	14	疾病及び体調不良の子どもへの対応			
	15	食物アレルギーなど特別な配慮を要する子どもの食と栄養			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果、演習授業の内容を理解して積極的に授業に臨んだか等、受講態度を含めて総合的に評価する。				
使用テキスト等	「こどもの食と栄養」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こども家庭支援論 (2) 単位		担当者氏名		松本 貴子 (保育士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	家庭の意義とその機能について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。近年、多様化する子育て家庭のニーズの把握と子育て家庭の支援体制について把握する。				
授業概要	子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保護者支援の在り方を家庭という視点から明らかにしていく。問題を抱える家庭に対する支援等、社会的家庭に関する基本的な知識、家庭支援の専門性等について学ぶ。				
授業 計 画 表	1	家庭支援の意義と役割			
	2	家庭の意義と機能			
	3	家庭支援の機能			
	4	保育士等が行う家庭支援の原理			
	5	現代の家庭における人間関係			
	6	地域社会の変容と家庭支援			
	7	男女共同参画社会とワークライフバランス			
	8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源			
	9	子育て支援政策・次世代育成政策の推進			
	10	子育て支援サービスの概要			
	11	保育所入所児童の家庭への支援			
	12	地域の子育て家庭への支援			
	13	要保護児童及びその家庭に対する支援			
	14	子育て家庭支援における関係機関との連携			
	15	子育て支援サービスの課題			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「家庭支援論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「健康」		担当者氏名		泉 一郎 <small>（豊岡短期大学特別招聘教員）</small>
	（ 1 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎を作る重要な時期である。子どもの健康を守り育てるためには実際の保育現場で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し支援するのが効果的かについて積極的に関与し、子どもの個々の健康状態を評価する能力を養うこととする。				
授業概要	乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態にあった配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら子どもの積極的な健康指導を目指す。				
授業 計 画 表	1	領域「健康」の意味			
	2	保育の意義と児童観			
	3	子ども理解			
	4	乳幼児の心身の発達			
	5	発達過程に応じた保育			
	6	子どもの心の健康			
	7	こころの発達とストレスのサイン			
	8	子どもの健康と虐待			
	9	基本的な生活習慣の獲得			
	10	食育と健康との関わり			
	11	子どもの遊びの発達と健康			
	12	幼児の遊びを引き出す環境づくり			
	13	安全管理と安全教育			
	14	健康と自然環境			
	15	保育内容「健康」のまとめ			
成績評価基準	受講態度、課題（ワークシート、プレゼンテーション）、単位認定試験から評価し60点以上を合格とする。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭) (豊岡短期大学特別招聘教員)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることによりより良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味について考える。				
授業概要	こどもは様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に保育現場における具体的事例をあげて学習していく。				
授業 計 画 表	1	環境の定義			
	2	環境を通して行う保育の意味			
	3	領域「環境」のねらい・内容			
	4	領域「環境」の内容の取扱い・指導計画			
	5	人的環境・物的環境			
	6	自然環境、社会・文化環境			
	7	保育における環境の重要性			
	8	好奇心・探求心・思考力の芽生え			
	9	保育環境のデザイン 室内環境			
	10	保育環境のデザイン 室外環境			
	11	保育者の役割			
	12	さまざまな環境との出会い 標識・文字			
	13	さまざまな環境との出会い 数量と図形・ものの性質			
	14	こどもの遊びの世界 「3間」の意味			
	15	こどもと環境における現状と課題 小学校との連携			
成績評価基準	受講態度、グループワークの発表内容、単位終了試験から総合的に判断し、60点以上を合格とする。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	乳幼児保育Ⅱ (1) 単位		担当者氏名		岩本 久美子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>乳幼児保育の場について家庭及び家庭的保育などの現状と関連性を理解できる。 乳幼児保育の現状と役割、乳幼児の援助について具体的に理解できる。 乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。</p>				
授業概要	<p>乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。</p>				
授業 計 画 表	1	乳幼児保育とは			
	2	乳幼児保育の歴史、背景と制度			
	3	現代社会と乳児、乳幼児保育の場			
	4	乳幼児の発達と保育内容（1） 6か月未満児			
	5	乳幼児の発達と保育内容（2） 6か月から1歳3か月未満児			
	6	乳幼児の発達と保育内容（3） 1歳3か月から2歳児			
	7	乳幼児保育における保護者との関係			
	8	乳幼児保育の現状			
	9	乳幼児の生活と遊び、環境づくり			
	10	乳幼児の理解、援助の実際			
	11	集団保育における安全と健康			
	12	乳幼児保育の発達と保育内容			
	13	保育課程に基づく指導計画			
	14	乳幼児保育における連携と地域子育て支援			
	15	乳幼児保育の課題			
成績評価基準	<p>レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「乳幼児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	障害児保育 (2) 単位		担当者氏名		松本 貴子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	障がいの種類や障害児の特性、障害児に対する保育方法等、障害児を保育する際に必要な基本的知識を身に付け、実践できる力をつける。				
授業概要	近年、保育における障害児へのニーズが高まっている。そこで本講義では障がいの種類や障害児の特性、障害児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を教授する。				
授業 計 画 表	1	障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷			
	2	障がい児保育の基本			
	3	肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と支援			
	4	知的障がい児の理解と支援			
	5	発達障がい児（ADHD、LD）の理解と支援			
	6	発達障がい児（ASD）の理解と支援			
	7	障がいのある子どもの家族の理解と支援			
	8	障がいのある子どもの記録及び評価と計画作成			
	9	障がいのある子どもへのコミュニケーション支援			
	10	個々の発達を促す生活や遊びの環境			
	11	子ども同士のかかわりと育ち合い			
	12	職員間の協働			
	13	地域の専門機関や小学校との連携			
	14	保健・医療・福祉・教育における現状と課題			
	15	障がいのある子どもへの支援の場の広がりにつながり			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。				
使用テキスト等	「障害児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	社会的養護Ⅱ		担当者氏名		江島 祥子 (姫路大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	障がいの種類や障害児の特性、障害児に対する保育方法等、障害児を保育する際に必要な基本的知識を身に付け、実践できる力をつける。				
授業概要	近年、保育における障害児へのニーズが高まっている。そこで本講義では障がいの種類や障害児の特性、障害児に対する保育方法等、障がい児を保育する際に必要な基本的知識を教授する。				
授業 計 画 表	1	障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷			
	2	障がい児保育の基本			
	3	肢体不自由、視覚・聴覚障害児の理解と支援			
	4	知的障がい児の理解と支援			
	5	発達障がい児（ADHD、LD）の理解と支援			
	6	発達障がい児（ASD）の理解と支援			
	7	障がいのある子どもの家族の理解と支援			
	8	障がいのある子どもの記録及び評価と計画作成			
	9	障がいのある子どもへのコミュニケーション支援			
	10	個々の発達を促す生活や遊びの環境			
	11	子ども同士のかかわりと育ち合い			
	12	職員間の協働			
	13	地域の専門機関や小学校との連携			
	14	保健・医療・福祉・教育における現状と課題			
	15	障がいのある子どもへの支援の場の広がりにつながり			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。				
使用テキスト等	「障害児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	子育て支援 (1) 単位		担当者氏名		加藤 武 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育相談支援の知識と技術を演習で身に付けるとともに、保育相談支援の実際について事例を通して理解できるようになる。				
授業概要	保育相談支援は保育の知識および技術を使って子どもの最善の利益を守るために行われる保護者支援である。保護者や子どものおかれている現状を把握し、保護者支援のあり方を演習を通して具体的に学ぶ。				
授業 計 画 表	1	子育て支援について			
	2	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より子育て支援を学ぶ			
	3	こどもの最善の利益と福祉			
	4	保育相談支援の構造と展開			
	5	保育相談支援の内容			
	6	保育相談支援の方法、技術			
	7	保護者支援の計画			
	8	保護者支援の記録、評価、カンファレンス			
	9	保育実践における保護者支援についての演習			
	10	保育相談支援の直接的な手段			
	11	保育相談支援の間接的な手段			
	12	児童福祉施設の保育相談支援を事例を通して学ぶ			
	13	園児の保護者や地域の保護者の保育相談支援			
	14	特別な配慮を要する家庭への支援			
	15	保育所以外の児童福祉施設の保育相談支援			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。				
使用テキスト等	「相談援助 保育相談支援」笠師千恵、小坂明子（中山書店） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	保育・教職実践演習 (2) 単位		担当者氏名		池山 廣栄 (元小学校校長) (豊岡短期大学特別招聘教員)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教員の養成を図る。特別支援教育についての学びを幼稚園教育の理解へと発展させる。学習知と実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意識を醸成する。				
授業概要	これまでに形成された資質能力を確認し、これからの課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。				
授業 計 画 表	1	教師という職業			
	2	学級経営			
	3	特別支援教育の基礎			
	4	特別支援教育と教師・保育者			
	5	保育における集団の編成			
	6	幼児教育の将来的展望			
	7	幼保小連携			
	8	学級経営における教師の対応			
	9	学級経営における臨床場面での教師の対応			
	10	保育場面での対応 課題ある子どもの事例研究			
	11	集団討論「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」			
	12	保育計画と模擬保育			
	13	統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望			
	14	「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方			
	15	学習のまとめ			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果、演習への取り組みから判定し評価する。				
使用テキスト等	「保育・教職実践演習」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅰ（ピアノ実技）		担当者氏名		鈴木 至門、堀 祐子 (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>保育内容に沿ってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人間形成を育成することをテーマとする。</p> <p>保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識を修得する。</p>				
授業概要	<p>ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽のさまざまな要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュも行う。実技修得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。</p>				
授業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	課題曲の学習2① グループレッスン	
	2	ピアノ実技、ソルフェージュのガイダンス	17	課題曲の学習2② 個人レッスン	
	3	第1 教程で学ぶピアノ奏法	18	発表会形式によるプレテスト2① ピアノ奏法	
	4	個々の習得度を考慮した練習曲の選択	19	発表会形式によるプレテスト2② ソルフェージュ	
	5	楽曲構成に注目した学習① グループレッスン	20	第3 教程で学ぶ楽曲 表現の幅を広げる	
	6	楽曲構成に注目した学習② 個人レッスン	21	課題曲の学習3① グループレッスン	
	7	課題曲の学習1① グループレッスン	22	課題曲の学習3② グループレッスン	
	8	課題曲の学習1② 個人レッスン	23	課題曲の技術的な問題点の練習法	
	9	発表会形式によるプレテスト1① ピアノ奏法	24	発表会形式によるプレテスト3① ピアノ奏法	
	10	発表会形式によるプレテスト1① ソルフェージュ	25	発表会形式によるプレテスト3① ソルフェージュ	
	11	第2 教程で学ぶピアノ奏法	26	課題曲の振り返りと技術的な問題点の練習法	
	12	指の交差、ポジション移動の習得	27	発表会テスト ピアノ①	
	13	楽曲構成に注目した学習① グループレッスン	28	発表会テスト ソルフェージュ	
	14	楽曲構成に注目した学習② 個人レッスン	29	発表会テスト ピアノ②	
	15	まとめ 課題曲の技術的な問題点の練習法	30	発表会テスト ピアノ③	
成績評価基準	<p>受講までの自学自習態度、段階ごとの演奏技術習得度、演奏発表により総合的に評価する。</p>				
使用テキスト等	<p>「こどもと音楽表現」（豊岡短期大学）</p> <p>「こどものうた200」（チャイルド本社）</p> <p>「続こどものうた200」（チャイルド本社）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅲ（人間関係）		担当者氏名		古川 聖子 （保育士）
	（ 2 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>子ども側に立った理解と保育者として何が出来るかを求められる保育士像から模索し、保育士の専門性について理解する。</p> <p>生涯発達の観点をもちながら、人間関係を中心とした子どもの発達を理解する。</p>				
授業概要	グループワークを通し、保育の実践で利用可能な技術と知識・能力を磨き、子どもの発達を捉えながら、現場での実践を発表を行う。				
授業 計 画 表	1	求められる保育士像～保育士の専門性と人材確保に向けた取り組み～ 講義			
	2	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	3	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	4	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	5	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	6	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	7	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	8	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	9	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	10	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	11	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	12	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	13	実践発表を行う			
	14	実践発表を行う			
	15	まとめ			
成績評価基準	発表60%、取り組む態度・発表への取り組む姿勢 40%				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅳ（卒業研究）		担当者氏名		古川 聖子 （保育士）
	（ 1 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	2年間の学内外における学びを基に、各自が関心のあるテーマに取り組み、学習の成果をまとめ、レポートの作成と発表を行う。				
授業概要	各自が関心のあるテーマを基に、課題設定、研究、考察をし、レポートとしてまとめる。また、皆の前で研究の成果をまとめ、レジュメ、ポスター、PowerPoint等のツールを使い発表をする。				
授業計画表	1	オリエンテーション・課題の立て方と研究の進め方			
	2	課題設定のための学習			
	3	課題設定のための学習			
	4	研究計画			
	5	各自研究に取り組む			
	6	各自研究に取り組む			
	7	各自研究に取り組む			
	8	各自研究に取り組む			
	9	各自研究に取り組む			
	10	レポート作成			
	11	レポート作成			
	12	発表準備			
	13	発表準備			
	14	研究発表会			
	15	研究発表会・レポート提出			
成績評価基準	レポート60% 取り組む態度・発表への取り組む姿勢と成果 40%				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの理解と相談支援 (2) 単位		担当者氏名		湯本 正明 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	相談支援とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育者などに助言、指導、カウンセリングを行うことである。このような働きかけを通して、子どもの持つ悩みや問題の解決を援助し、こどもの望ましい生き方・あり方や人格の成長を目指していくことである。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学ぶ。				
授業概要	相談支援の究極的な目的は、子どもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導（生徒指導）、しつけ、学習適応、進路指導等について学ぶ。 また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深める。				
授業 計 画 表	1	授業概要概要と学び方			
	2	カウンセリングの基本			
	3	カウンセリングの実際			
	4	教育相談と心理アセスメント			
	5	こどもの自己表現と自己理解の発達			
	6	自己理解の技法			
	7	幼児・子ども理解とカウンセリング・マインド			
	8	教師の行う教育相談とカウンセリングの違い			
	9	園児への心理的援助及び保護者との教育相談			
	10	小学校における児童への心理的援助と保護者への教育相談			
	11	相談の実際（発達障害、知的障害、自閉・情緒障害）			
	12	相談の実際（不登校・いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント）			
	13	相談の実際（事例研究）			
	14	相談と家庭・学校・地域との連携と教育相談			
	15	相談の課題と対応			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「こどもの理解と相談支援」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの理解と援助 (1) 単位		担当者氏名		江島 祥子 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷に触れながら、相談援助の方法と技術並びに相談援助の具体的展開について系統的に理解していく。				
授業概要	望ましい保育者となるために、ソーシャルワークに関する基本的な知識や技術、人間として身に付けなければならない価値・倫理等について学ぶ。				
授業 計 画 表	1	相談援助の理論・意義・機能			
	2	保育における相談援助の位置付け			
	3	相談援助の方法と技術			
	4	相談援助の対象と支援過程			
	5	相談援助の技術・アプローチ			
	6	相談援助における計画・記録・評価			
	7	相談援助における関係機関と協働			
	8	相談援助における多様な専門職との連携			
	9	相談援助における社会資源の活用、調整、開発			
	10	虐待の防止と対応			
	11	事例分析 虐待の事例分析			
	12	障がいのある子どもとその保護者への支援			
	13	事例分析 障がいのある子どもの事例分析			
	14	ロールプレイによる事例分析			
	15	フィールドワークによる事例分析			
成績評価基準	発言や討議参加における積極的に学ぶ姿勢・行動がとれているかを基準とする。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「音楽表現」 (1) 単位		担当者氏名		齋藤 淳子、鈴木 至門 (豊岡短期大学講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を修得する。				
授業概要	領域「表現」は乳児期の終わりまでに育ててほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。				
授 業 計 画 表	1	領域「表現」における目標と「ねらい」「内容」の理解	16	生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践	
	2	表現活動を支える伴奏についての基礎知識の習得と実践	17	指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方	
	3	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解	18	模擬保育に使用する歌や曲の選曲、教材研究とその伴奏	
	4	表現活動における伴奏の方法と実践	19	指導案作成における環境構成及び保育者の援助と模擬保育	
	5	身近にある音風景「自然の音」「身の回りの音」への気づきと表現	20	模擬保育に使用する歌や曲の教材けんきゅうと伴奏法の実践	
	6	サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現、伴奏法	21	模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案	
	7	声の仕組み、「歌う」表現活動の理解	22	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	
	8	乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法	23	模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案	
	9	0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	24	模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践	
	10	乳児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法	25	模擬保育「身近な素材を生かして楽器あそび」の実践と指導案	
	11	3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	26	模擬保育での弾き歌い及び楽器遊びの教材研究と伴奏法の実践	
	12	幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法	27	「音楽の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解	
	13	「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践	28	保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践	
	14	「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法	29	小学校1年生 教科「音楽」への接続	
	15	領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用	30	保幼小連携ともなう学びの連続性についての理解のまとめ	
成績評価基準	<p>受講態度、課題：保育者という専門職を目指す者として、その学ぶ姿勢が明確な目的意識を持ったものかどうか、模擬保育・実践課題への積極的参加とその内容を基準とする。</p> <p>単位認定試験：授業の振り返りから学習課題、今後の学習目標を明確にする。</p>				
使用テキスト等	<p>「こどもの指導法「音楽表現」」、「音楽表現論」（豊岡短期大学）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「言語表現」		担当者氏名		若本 久美子 (保育士) (豊岡短期大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	こどもたちの生活に組み入れられている文化についてその歴史、内容などを理解し、豊かに育ちゆくこどものために好ましい文化のあり方を理解する。保育現場で使用される言語に関わる文化財を取り上げ、日々の生活の中でこどもの言語習得経験とどのように関係するのかを理解することを目的とする。				
授業概要	理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身に付け、子どもたちが文化によって夢や希望を与えられるだけでなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野にいれ学習を行う。				
授業 計 画 表	1	こどもと文化のかかわり			
	2	意義、歴史、内容			
	3	成長と遊び、玩具			
	4	伝統文化 1 折り紙の意義			
	5	伝統文化 2 折り紙の基礎			
	6	絵本 1 こどもの絵本			
	7	絵本 2 絵本の種類			
	8	絵本 3 絵本の選び方			
	9	絵本 4 読み聞かせの方法と留意点			
	10	紙芝居の歴史と特徴			
	11	紙芝居の演じ方と留意点			
	12	おはなしの意義 選び方、歴史			
	13	語り聞かせの方法と留意点			
	14	お話 各国の作品、特徴			
	15	児童文化財の分析・考察			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	「こどもと言語表現」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	特別支援教育 (1) 単位		担当者氏名		堀 祐子 (元長岡市立総合支援学校校長) (豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	特別な教育的ニーズを有する子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれ自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのある子どもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。				
授業概要	特別な教育的ニーズを持つ子供を支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。				
授業 計 画 表	1	特別な教育的ニーズとは何か			
	2	特別支援教育課程と学びの場			
	3	発達障害や軽度知的障害と心と体の育ち			
	4	子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び			
	5	多様な子どものニーズの理解			
	6	多様な子どもの学びと生活			
	7	教育課程における支援			
	8	通常学級における担任による支援			
	9	個別の指導計画及び個別の教育支援計画			
	10	アセスメントに基づく計画と評価			
	11	特別支援教育コーディネーターの役割			
	12	保護者・家庭をとりまく問題			
	13	保護者・家庭とのつながりの重要性			
	14	母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解			
	15	特別な教育的ニーズを考える			
成績評価基準	レポート、科目試験				
使用テキスト等	豊岡短期大学『特別支教育』 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもと体育 (1) 単位		担当者氏名		中島 孝子 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し、具体的な援助方法を習得する。子どもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。				
授業概要	発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこどもたちが自主的に楽しく安全に展開する援助方法を学ぶ。				
授業 計 画 表	1	オリエンテーション			
	2	自然での遊び			
	3	戸外、森などでの遊び			
	4	固定遊具 すべり台、ジャングルジム			
	5	固定遊具 ぶらんこ、シーソー			
	6	遊具を使った遊び① 小さいボール、柔らかいボール			
	7	大きいボール、様々なボール			
	8	遊具を使った遊び② フープ、輪、ロープ			
	9	新聞紙、タオルなど			
	10	大型遊具を使った遊び マット、平均台、跳び箱運動			
	11	複数の遊具の組み合わせによる運動			
	12	サーキット遊び			
	13	身体の実現による伝承遊び（遊具を使わない）鬼遊び、わらべ歌など			
	14	身体の実現による伝承遊び（遊具を使う）おはじき、お手玉、けん玉など			
	15	運動遊びで培われる体と心、社会性			
成績評価基準	受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する				
使用テキスト等	配布プリント 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	健康論 (1) 単位		担当者氏名		泉 一郎 <small>(豊岡短期大学特別招聘教員)</small>
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	領域「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての理論的学習を身に付ける。				
授業概要	乳幼児期の運動発達における大人との相違について資料や事例を活用し、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるようにする。乳幼児期の子どもたちの健康に対する知識と発育発達について学ぶ。				
授業 計 画 表	1	乳幼児と健康			
	2	乳幼児期の心と体の発達			
	3	乳幼児期の心と体の発達と健康課題			
	4	健康の定義と乳幼児期の健康の意義			
	5	乳幼児期の体の発達の特徴			
	6	乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義			
	7	乳幼児の安全教育に関する基本的な考え方			
	8	乳幼児期の健康管理に関する基本的な考え方			
	9	乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防			
	10	乳幼児の危険に関するりすく・ハザード			
	11	乳幼児期の運動発達の特徴			
	12	乳幼児期の生活・遊びと安全管理			
	13	乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義			
	14	日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮			
	15	乳幼児の身体活動の在り方			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	豊岡短期大学『保育内容 健康』 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	環境論 (1) 単位		担当者氏名		三沢 紀彦江 (元幼稚園教師) (豊岡短期大学特別招聘教員)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える。環境を通して行う保育の意味を知る。保育環境のデザインを実践できる。様々な環境との出会いを理解する。				
授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける必要がある。そのためにさまざまな環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。				
授業 計 画 表	1	環境の定義			
	2	環境を通して行う保育の意味			
	3	領域「環境」の位置づけ			
	4	ねらい、内容、指導計画			
	5	人的環境・物的環境			
	6	自然環境、社会・文化環境			
	7	幼児の身近な環境との関わり			
	8	室内・室外			
	9	文字・標識・数量・図形			
	10	季節の行事、地域の行事			
	11	地域、施設との関わり			
	12	住んでいる町を知ろう			
	13	保育者としての専門性の向上			
	14	保育マインドの向上			
	15	保育環境をデザインする			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する				
使用テキスト等	豊岡短期大学『環境論』 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	乳幼児の被服 (1) 単位		担当者氏名		佐藤 治子 (元保育園園長)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	保育現場で役立つ基本縫製技術と手芸の基礎を学び用途に応じた作品の製作ができる。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・縫製の基礎技術、手芸の基本技術を身に付け応用作品への展開ができる。 ・習得した基本縫製技術により保育現場で役立つ教材を製作する。 				
授業 計 画 表	1	基本縫製と手芸 基礎縫製			
	2	基本縫製と手芸 基礎手芸 基本ステッチ			
	3	フェルト手芸（知育玩具） フェルトを利用した小物作り			
	4	フェルト手芸（知育玩具） パペット人形製作			
	5	フェルト手芸（知育玩具） パペット人形製作			
	6	フェルト手芸（知育玩具） パペット人形製作			
	7	フェルト手芸（知育玩具） パペット人形製作			
	8	フェルト手芸（知育玩具） パペット人形製作			
	9	フェルト手芸（応用） タペストリー製作			
	10	フェルト手芸（応用） タペストリー製作			
	11	フェルト手芸（応用） タペストリー製作			
	12	フェルト手芸（応用） タペストリー製作			
	13	知育玩具製作（応用） ボタン、スナップ、マジックテープを利用			
	14	知育玩具製作（応用） ボタン、スナップ、マジックテープを利用			
	15	知育玩具製作（応用） ボタン、スナップ、マジックテープを利用			
成績評価基準	授業に臨む姿勢、作品の出来栄を総合して評価する。				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅱ（表現）		担当者氏名		古川 聖子 （保育士）
	（ 2 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	・子どもに伝わるような配慮、工夫をしながら表現できるようになる。				
授業概要	・視聴覚教材の演習（絵本・紙芝居・軍手シアター・ペープサート パネルシアター・エプロンシアター）				
授業 計 画 表	1	演じる・表現について	16	「パネルシアター」③制作	
	2	「絵本」の読み聞かせについて①実践	17	「パネルシアター」④実践	
	3	「絵本」の読み聞かせについて②発表	18	「パネルシアター」⑤発表	
	4	「紙芝居」の読み聞かせについて①実践	19	「エプロンシアター」①立案	
	5	「紙芝居」の読み聞かせについて②発表	20	「エプロンシアター」②制作	
	6	「ペープサート」①立案	21	「エプロンシアター」③制作	
	7	「ペープサート」②制作	22	「エプロンシアター」④実践	
	8	「ペープサート」③発表	23	「エプロンシアター」⑤発表	
	9	「軍手シアター」①立案	24	「自己紹介スケッチブック②」①立案	
	10	「軍手シアター」②制作	25	「自己紹介スケッチブック②」②制作	
	11	「軍手シアター」③制作	26	「自己紹介スケッチブック②」③制作	
	12	「軍手シアター」④実践	27	「自己紹介スケッチブック②」④実践	
	13	「軍手シアター」⑤発表	28	「自己紹介スケッチブック②」⑤発表	
	14	「パネルシアター」①立案	29	年間で制作した作品について発表	
	15	「パネルシアター」②制作	30	年間で制作した作品について発表・まとめ	
成績評価基準	可愛への取り組み30%、発表の姿勢など30%、授業態度等40%				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習Ⅱ		担当者氏名		古川 聖子 (保育士)
	(2) 単位		学習形態		実習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	90 時間
授業目標	<p>実習生の姿勢・態度としては、向上心を持って実践的学びを積む 保育内容に沿う教材準備・環境構成ができ、生活・遊びを促す援助をする 実習日誌には保育者の意図を感じ取り学びや気づきや子どもとのかかわりを詳細に記入する 指導案を書く意味が分かり実践を行う。全日実習指導案の立案と実践 手続きを計画的に進め、提出物は期日を守り提出する</p>				
授業概要	<p>保育実習Ⅰ（保育所）の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し 保育理念や保育計画を把握し、保育士の職務をより深く理解する。また修得した 知識と技術をきそとして、総合的に実践する応用力を身につける。</p>				
授業 計 画 表	1	実習期間：2週間 90時間			
	2	実習の内容：参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い省察する。			
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）及び実習日誌の評価をして行う。				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習指導Ⅱ (1) 単位		担当者氏名		古川 聖子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨く。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられることをねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で活かせるように準備する。				
授業 計 画 表	1	保育実習Ⅰの振り返り			
	2	実践的な自己課題の決定			
	3	保育知識のおさらいと実習で身に付けること			
	4	子どもの発達、5領域のねらいと現場での支店			
	5	子どもの基本的な生活習慣の獲得			
	6	基本的な生活習慣獲得における保育支援			
	7	遊びを展開するための知識			
	8	遊びを展開するための環境設定			
	9	子どもの心に寄り添う			
	10	環境構成の技術と人間関係構築			
	11	責任実習に向けての保育指導案の立案			
	12	責任実習実施の留意点			
	13	保育記録の視点			
	14	保育者としての倫理			
	15	実習上の諸注意のまとめ			
成績評価基準	レポート課題において学習状況を確認する				
使用テキスト等	豊岡短期大学『保育実習指導』 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習 (4) 単位		担当者氏名		宮崎 寛子、古川 聖子 (幼稚園教諭)
			学習形態		実習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	180 時間
授業目標	<p>実習園の特色や保育方針を理解し、課題を明確にし実習に臨む ピアノ等の保育技術を磨き実習に臨み実践の場においてさらなる向上をめざす。 幼児の言動から心情を感じ取りながらかかわることができる 記録は保育者の意図を感じ取り学びや気づきを記録に残す 指導案は子どもの姿を予測し配慮事項、留意点をあげる</p>				
授業概要	<p>今までの実習と経験を基に、観察実習・参加実習及び指導案に基づいた実践を行う。 幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、個と集団の理解、幼稚園教諭の職務に 対する理解がさらに深まるようにする。また、指導案を作成し実践的な体験を 通して学ぶ。</p>				
授業 計画 表	1	実習期間：20日間			
	2	実習の内容：参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い省察する。			
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園による評価（実習態度・幼稚園理解・幼児理解など）及び実習日誌の評価をして行う。				
使用テキスト等	なし				

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習事前事後指導 (1) 単位		担当者氏名		小林 智子、古川 聖子 (幼稚園教諭)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。				
授業概要	教育実習の意義と目的。実習生としての心構えを学ぶ。また幼児の発達についての特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標をもって実習に臨む態度を育成する。				
授業 計 画 表	1	幼稚園教育の特質			
	2	実習の意義と目的			
	3	保育者としての倫理			
	4	実習生としての心構え			
	5	事前相談・打合せ			
	6	長期指導計画・短期指導計画			
	7	子どもを取り巻く環境			
	8	幼児理解と保育			
	9	保護者理解と支援			
	10	特別な支援を要する子どもへの対応			
	11	手遊び、読み聞かせ			
	12	指導案とは何か			
	13	指導案作成の実際			
	14	幼児理解と学び			
	15	保育者の活動からの学び			
成績評価基準	授業内での関心・意欲・思考力・判断力・提出物を総合的に評価する				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	国語 I（国語）		担当者氏名		佐藤 忠弘 (元中学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	幼児及び小学校の国語教育についての基礎的知識を学び、国語をよりよく使用できるように、国語への意識を高めることを目標とする。				
授業概要	<p>幼児児童のことばの発達を助けたり、小学校の国語科の教授を行ったりするための基礎を学ぶ。国語についての知識を学び、国語への認識を深め、日常的なことばを客観的・反省的に捉え、国語をよりよく使用できるように、国語への意識を高めることを目的とする。具体的には、国語の音韻・音声・文法・語彙・文字・歴史・方言・国語政策など、国語を構成する各分野についての概説を行うとともに、言語の習得などについても扱う。</p>				
授業計画表	1	言語の役割			
	2	言語発達と学習			
	3	言語学習の課題			
	4	言語指導の実際			
	5	小学校国語教育の歴史と学習指導要領			
	6	国語科教育の目標			
	7	教材研究の意義			
	8	国語科授業の実際 「話すこと・聞くこと」			
	9	国語科教育の実際 「読むこと」 (低学年)			
	10	国語科教育の実際 「読むこと」 (中学年)			
	11	国語科教育の実際 「読むこと」 (高学年)			
	12	国語科教育の実際 「書くこと」			
	13	伝統的な言語文化と国語の特質			
	14	言語指導の理論と実践			
	15	国語科教育の理解を深める授業づくり			
成績評価基準	レポートの内容、科目試験の成績をもって評価する				
使用テキスト等	姫路大学 『国語 I』				

授業概要（シラバス）

科目名	書写 (1) 単位		担当者氏名		横山 朋子 (元高等学校教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	書写教育の目標、学習内容を把握し、書写学習の意義について理解すること、小学校教員として必要となる文字を美しく書く力を身に付けることを目標とする。				
授業概要	字形の認知、また筆使いの習得の為、用筆、形態美、線の鋭さ、点画の厳しさなど、極楷とも言われる楷書の代表的な「九成宮醜泉銘」の臨書を中心に行う。また、適切に表現する能力を育てるとともに、板書や報告書等、小学校教員として必要となる「文字を美しく書く」という実践力を養い、応用性を身につけさせる。				
授業計画表	1	書写教育とは			
	2	臨書および古典			
	3	臨書①			
	4	臨書②			
	5	臨書③			
	6	文字、「漢字」「かな」の成り立ち			
	7	「かな、漢字仮名交じり文」			
	8	基本的な用筆、運筆			
	9	点画や線質の表し方			
	10	小筆の使用			
	11	字形構成の把握			
	12	字源			
	13	文字教育の発展			
	14	書写の使命			
	15	まとめ			
成績評価基準	受講態度、提出物を総合して評価する				
使用テキスト等	配布プリント				

授業概要（シラバス）

科目名	社会 (2) 単位		担当者氏名		近藤 道範 (元中学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	社会科教育の指導計画作成の根本原理を習得することを目標とする。				
授業概要	「学習指導要領」(社会)の目標、および、各学年の目標と内容を認識させる学習を進め、指導計画の作成について欠かせない基本的な知識を着実に身につけること、および、具体的な学習の指導計画を事例として、その特色を分析しながら、指導計画作成の根本原理を習得することを本授業の目的とする。				
授業計画表	1	社会科の教科内容			
	2	地図帳、地図記号の活用、都道府県の特徴			
	3	ICTを活用した教材・資料の収集			
	4	日本の農林水産業			
	5	日本の工業			
	6	暮らしと運輸、貿易			
	7	日本の歴史 人物と文化の背景 (古代)			
	8	日本の歴史 人物と文化の背景 (中世)			
	9	日本の歴史 人物と文化の背景 (近世)			
	10	日本の歴史 近代			
	11	我が国の政治			
	12	地域の暮らしと環境			
	13	国際社会の課題			
	14	現代社会の諸問題			
	15	まとめと振り返り			
成績評価基準	レポート、科目試験による				
使用テキスト等	「社会科教育のルネサンス 実践知を求めて」				

授業概要（シラバス）

科目名	算数 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長) 関 暢夫 (元中学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教育研究の方法を習得することを目標とする。				
授業概要	小学校算数科の主要な単元に関する教材研究を通して、算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教材研究の方法を習得することを目的とする。そのためにまず、こどもの実態を把握するために授業ビデオを視聴し、次に小グループに分かれ担当する学習内容について指導案を作成・発表し、算数科の学習内容に対する理解を深めることとする。				
授業計画表	1	オリエンテーション			
	2	少数や分数とは何か			
	3	ことばと演算の関係			
	4	数の世界と量の世界			
	5	測定とは何か			
	6	内包量とは何か パーセント			
	7	内包量とは何か 速度や密度			
	8	関数 比例、反比例			
	9	グラフやデータの活用			
	10	子どもの認知発達と算数数学			
	11	子どもの遊びと算数			
	12	図形の性質とポイント			
	13	図形と面積			
	14	算数・数学教育の歴史			
	15	授業の振り返り			
成績評価基準	授業課題、レポート、科目試験により評価する				
使用テキスト等	「新訂算数教育の理論と実際」				

授業概要（シラバス）

科目名	理科 (2) 単位		担当者氏名		熊倉 達也 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 4領域（エネルギー、粒子、生命、地球）の基本的な実験・観察方法の習得 2. 小学校理科の内容を絵図で示しイメージを持たせる教育法の知識・技能の習得 3. 理科教育が人間形成に果たす役割、小学校理科で育成すべき資質・能力について説明できる。 4. 各学年の理科の学習内容を科学的な問題解決学習を行うために必要な学習の流れで説明できる。 5. 思考力・判断力・表現力等のポイントを各学年の授業内容から説明できる。				
授業概要	小学校理科の学習内容をエネルギー（物理）、粒子（化学）、生命（生物）、地球（地学）にわけ、それぞれの実験、観察、飼育・栽培などの基礎的知識および技能を身に付ける。さらに、理科で育成すべき資質・能力について学び、理科の見方・考え方を理解する。				
授業計画表	1	授業ガイダンス			
	2	昆虫と植物			
	3	磁石につくもの、つかないもの			
	4	乾電池とモーターの回る早さ			
	5	体の動くしくみ			
	6	天気の様子			
	7	ものの温まり方			
	8	電磁石の性質			
	9	振り子の運動			
	10	燃焼の仕組み			
	11	月の満ち欠け			
	12	電気の利用			
	13	水溶液の性質			
	14	4領域の内容の基本事項			
	15	理科と環境教育			
成績評価基準	授業課題、レポート、科目試験により評価する				
使用テキスト等	姫路大学 理科 小学校学習指導要領<平成29年告示>解説 理科編				

授業概要（シラバス）

科目名	生活 (2) 単位		担当者氏名		木村 長子 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	幼児期・児童期のよりよい生活の在り方について学習を深め、こどもの成長に対する理解を深めることを目的とする。				
授業概要	幼児期・児童期にふさわしい生活の在り方について一般的な視点から理解する。ついで、幼児期に焦点をあて、生活保育の在り方、進め方について実践的に学ぶ。さらに、児童期に焦点をあて、小学校の生活科を中心に具体的な活動や生活経験を教育的に意味づけることを学ぶ。				
授業計画表	1	授業概要			
	2	生活科学習の特徴			
	3	生活科の研究基礎			
	4	生活科のカリキュラム			
	5	学習指導要領の変遷			
	6	生活科の背景や意図、ねらい			
	7	生活科の特徴			
	8	生活科の目標			
	9	低学年における内容構成			
	10	具体的な学習の流れと学習の実際			
	11	生活科における教師の役割			
	12	カリキュラム構成 単元や年間指導計画の作成			
	13	生活科における評価			
	14	第3学年以上への円滑な移行			
	15	望ましい生活科教育			
成績評価基準	授業態度、レポート提出、科目試験により評価する				
使用テキスト等	姫路大学『生活』 小学校学習指導要領 生活編				

授業概要（シラバス）

科目名	音楽Ⅰ (2) 単位		担当者氏名		菊藤 淳子 (姫路大学非常勤講師) 坂 祐子 鈴木 至門
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	ピアノ演奏で必要とされる様々な知識・技能を深め、実際に演奏を行うことを目標とする。				
授業概要	様々な音楽演奏をする上で必要とされるリズム感やコード感覚、アレンジ力を養い、実際に演奏することを目標とする。一つの楽曲をアレンジする方法を学び、出来上がったアレンジ曲を実際に合奏する。				
授業計画表	1	ガイダンス			
	2	ピアノ奏法のための用語			
	3	楽典について			
	4	課題曲の解説			
	5	譜表と音名			
	6	音符と休符			
	7	練習曲による小テスト			
	8	連弾について			
	9	音程			
	10	音階と調			
	11	リズムと拍子			
	12	課題曲の発表			
	13	ペダルの使用法			
	14	音楽表現のための楽語			
	15	演奏発表とまとめ			
成績評価基準	理論の理解度を小テスト、レポート、科目試験により評価する 課題曲に対する取り組みと演奏により加点する				
使用テキスト等	姫路大学「音楽Ⅰ」 姫路大学「こどもと音楽表現（ピアノ）」				

授業概要（シラバス）

科目名	音楽Ⅱ（ピアノ） （ 1 ）単位		担当者氏名		齋藤 淳子 堀 祐子 鈴木 至門 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	ピアノ演奏で必要とされる様々な知識・技能を深め、実際に演奏を行うことを目標とする。				
授業概要	様々な音楽演奏をする上で必要とされるリズム感やコード感覚、アレンジ力を養い、実際に演奏することを目標とする。一つの楽曲をアレンジする方法を学び、出来上がったアレンジ曲を実際に合奏する。				
授業計画表	1	ピアノの基礎的奏法の習得（ピアノ曲）			
	2	バイエル48番			
	3	バイエル58番			
	4	バイエル66番			
	5	ピアノの基礎的奏法の習得（弾き歌い）			
	6	弾き歌い「ふしぎなポケット」（ト長調）			
	7	ピアノの基礎的奏法の確認と復習①（姿勢、運指）			
	8	ピアノの基礎的奏法の確認と復習②（平易な伴奏法）			
	9	コード（和音）の理解			
	10	読譜力の強化			
	11	拍子と音程の認識			
	12	曲想の認識			
	13	弾き歌いの伴奏アレンジ			
	14	学びの過程にあった選曲			
	15	こどもの成長を促す音楽活動			
成績評価基準	事前課題、単位認定試験、意欲度から評価する				
使用テキスト等	姫路大学「こどもと音楽表現（ピアノ）」				

授業概要（シラバス）

科目名	外国語（英語）		担当者氏名		加藤 圭子 （姫路大学非常勤講師）
	（ 1 ）単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	小中学校への接続を踏まえながら小学校における「外国語活動」「外国語」の授業を担当するために必要な背景的知識を身に付けるとともに、授業を担当するために必要な実践的でコミュニケーション型の英語運用能力を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。				
授業概要	英語に関する基本的な知識、第二言語習得、児童文学、異文化理解に関する基本的な知識を身に付けるとともに、インターラクティブな言語活動を通して実践的な英語運用能力を育成する。				
授業計画表	1	授業実践に必要な英語力			
	2	英語の音声とリズム			
	3	発音と綴り			
	4	文の構造・文法			
	5	授業実践に必要な英語力			
	6	ティーチャートーク			
	7	児童文学（絵本）			
	8	子ども向けの歌や詩			
	9	異文化理解			
	10	英語の書き方			
	11	英語コミュニケーション①（聞く）			
	12	英語コミュニケーション②（読む）			
	13	英語コミュニケーション③（話す）			
	14	英語コミュニケーション④（書く）			
	15	英語コミュニケーション⑤（領域統合型の言語活動）			
成績評価基準	レポート課題における専門的知識の理解度、科目試験の結果により総合的に評価する				
使用テキスト等	小学校英語ではじめる教科書（小川隆夫、東仁美著 mpi松香フォニックス） 小学校学習指導要領 外国語活動・外国語				

授業概要（シラバス）

科目名	保育の表現技術(合奏)		担当者氏名		青藤 淳子 堀 祐子 鈴木 至門 (姫路大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>こどもの表現活動の立場から音楽をとらえる。そのために一つ一つの楽器を使った表現から始まり、それらを重ね合わせる表現、つまり合奏について様々な角度からアプローチし、考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダルクローズ、コダーイ、オルフの音楽教育を理解する。 ・こどもの表現活動について理解する。 ・こどもが表現しやすい環境づくりについて考え、楽器を使った表現について習熟する。 				
授業概要	<p>こどもの表現活動の立場から音楽をとらえるために、ダルクローズ、コダーイ、オルフの音楽教育について学び、こどもの表現能力を引き出す合奏の指導法について考えるとともに、こどもの表現欲求に即した編曲法・指揮法について解説しながら、演習を交え授業を進める。</p>				
授業計画表	1	こどもと音楽表現 こどもの発達と「表現(音楽)」について考え、理解する。			
	2	こどもと音楽表現 こどもの発達と「表現(音楽)」について考え、理解する。			
	3	ダルクローズの音楽教育 身体を使った表現とリズムについて学び、実践する。			
	4	ダルクローズの音楽教育 身体を使った表現とリズムについて学び、実践する。			
	5	コダーイの音楽教育 わらべ歌やリズム唱による音楽表現の効果について学ぶ。			
	6	コダーイの音楽教育 わらべ歌やリズム唱による音楽表現の効果について学ぶ。			
	7	オルフの音楽教育 オルフ楽器について学び、合奏を実践する。			
	8	オルフの音楽教育 オルフ楽器について学び、合奏を実践する。			
	9	編曲法 こどもの「表現(音楽)」を念頭に置いた編曲法を修得する。			
	10	編曲法 こどもの「表現(音楽)」を念頭に置いた編曲法を修得する。			
	11	指揮法 こどもの「表現(音楽)」をサポートできる指揮について考え、実践する。			
	12	指揮法 こどもの「表現(音楽)」をサポートできる指揮について考え、実践する。			
	13	合奏の実践 様々な表現法を試み、音色を探求しながら合奏する。			
	14	合奏の実践 様々な表現法を試み、音色を探求しながら合奏する。			
	15	成績発表と総括 演奏会形式で合奏実践の成績発表を行い、楽器を通じたこどもの「表現(音楽)」について、また、こどもと音楽との関りについてまとめる。			
成績評価基準	<p>授業態度 20% 積極的、主体的な学習姿勢であるかどうかにより評価する。 課題 20% 提出・発表を求められた課題により評価する。 単位認定試験 60% 授業の内容を踏まえた試験を行い、その結果を基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
使用テキスト等	授業を進める上で必要に応じて適宜楽譜等の資料を配布する。				

授業概要（シラバス）

科目名	保育の表現技術(身体)		担当者氏名		中島 孝子 (姫路大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>幼児にとっての身体表現の意味を学び、身体表現遊び・運動を実践するために必要な実践的力量を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心身の発達や運動特性をふまえ、幼児期の身体表現の意味を理解する。 ・ 幼児を対象とした身体表現遊び・運動を実践するための指導上の留意点について理解する。 ・ 幼児を対象とした身体表現遊び・運動の実践に対する評価の視点を理解する。 				
授業概要	<p>幼児を対象とした身体表現遊び・運動を実践するために必要な実践的力量形成を目的とする。そのため、幼児の心身の発達や運動特性を理解したうえで、様々な身体表現遊び・運動の指導上の留意点について説明する。また、実践的力量を高めるためにグループごとに簡単な身体表現遊び・運動を提案し、互いに評価し合うことも行う。</p>				
授業計画表	1	幼児の運動特性と身体表現について			
	2	幼児の運動特性と身体表現について			
	3	保育所保育方針や幼稚園教育要領における身体表現			
	4	保育所保育方針や幼稚園教育要領における身体表現			
	5	身体を使った表現遊び・運動について			
	6	身体を使った表現遊び・運動について			
	7	道具を使った身体表現遊び・運動について			
	8	道具を使った身体表現遊び・運動について			
	9	リズムに合わせた身体表現遊び・運動について			
	10	リズムに合わせた身体表現遊び・運動について			
	11	グループワーク(提案に向けた準備)			
	12	グループワーク(提案に向けた準備)			
	13	様々な身体表現遊び・運動の提案			
	14	様々な身体表現遊び・運動の提案			
	15	身体表現遊び・運動の提案についてのふりかえり			
成績評価基準	<p>授業態度 20% 積極的、主体的な学びの姿勢や意欲等により評価する。 課題 30% 提出を求められた課題や小レポートを基準とする。 単位認定試験 50% 授業内容を踏まえた試験を実施し、その結果を基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
使用テキスト等	特に指定はせず、講義に関連した資料を必要に応じて配布する。				

授業概要（シラバス）

科目名	国語科指導法Ⅰ（国語）		担当者氏名		佐藤 忠弘 （元中学校校長） （姫路大学非常勤講師）
	（ 2 ）単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45時間
授業目標	<p>新学習指導要領を踏まえ3領域1項目のねらいに応じた国語授業を実践する上で必要な知識や指導力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領「国語編」改訂の趣旨を理解し、目標・内容を考察する。 ・各学年の教材の特質を理解し、必要に応じてアクティブラーニングを取り入れながら、学習指導案・板書計画案が作成できる。 				
授業概要	<p>各領域の具体的な教材研究の在り方について事例研究を行う。 全体指導計画に基づく学習指導案を作成し、評価基準の設定に取り組むとともに模擬授業を行う。</p>				
授業計画表	1	学習指導要領改訂の要点			
	2	学習指導案作成の要点			
	3	「話すこと・聞くこと」の授業分析			
	4	「書くこと」の授業分析			
	5	「読むこと」の授業分析			
	6	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の授業分析			
	7	ICTを活用したアクティブラーニングの授業案作成			
	8	新学習指導要領を踏まえた国語授業のねらい			
	9	学習指導案・板書計画・発問計画の書き方			
	10	各領域における授業研究の在り方			
	11	ICTを活用したアクティブラーニング授業の工夫 1.2.3年			
	12	ICTを活用したアクティブラーニング授業の工夫 4.5.6年			
	13	パワーポイントを使った模擬授業の実施			
	14	模擬授業の振り返り			
	15	適切な授業評価の在り方			
成績評価基準	<p>授業態度 生きる力に直結する教科の指導に情熱と学ぶ姿勢を持っているか。 課題 指導案・板書計画。発問計画が教材のねらいにそって作成できているか。 単位認定試験 各領域の教材に対する知識・理解力があるか。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
使用テキスト等	<p>小学校「新学習指導要領」新旧対照本(時事通信出版局) アクティブラーニングを位置づけた小学校国語科の授業プラン(中村和弘著・明治図書)</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	社会科指導法 (2) 単位		担当者氏名		近藤 道範 (元中学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	<p>小学校社会科教育の理論と実践について、①社会科授業の構想、②学習指導案の作成、③模擬授業の実施、④授業改善案作成、の4つの視点から学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解している。 ・社会科の基礎的方法原理「問題解決」「理解」「説明」「議論」を理解する。 ・具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。 				
授業概要	<p>学習指導要領における社会科の目標と内容について解説した後、社会科の基本的な方法原理「問題解決」「理解」「議論」について、具体的な授業実践を事例として考究する。さらに、社会学の学力・評価理論、学習指導の具体的な方法、学習指導案・教材研究・社会科授業研究について学びを深める。以上を通して、模擬授業を実施し、授業設計を行うことのできる実践的な能力を身につける。</p>				
授業計画表	1	学習指導要領における社会科の目標と内容			
	2	社会科の方法原理(1)：「問題解決」「理解」			
	3	社会科の方法原理(1)：「説明」「議論」			
	4	社会科の学力理論：社会科の基礎基本とは			
	5	社会科の評価理論：到達度評価・観点別評価とは			
	6	社会科の学習指導の方法を探る(1)：ICT、野外観察、地域調査の活用			
	7	社会科の学習指導の方法を探る(2)：アクティブラーニング、教科書の活用			
	8	社会科授業における学習指導案作り			
	9	社会科の教材研究と授業作り			
	10	社会科の授業研究の方法と実践			
	11	模擬授業(1)：中心資料と補助資料			
	12	模擬授業(2)：発問と板書			
	13	模擬授業(3)：社会科の教育技術			
	14	授業改善案の発表(1)：各グループによる授業改善案の検討			
	15	授業改善案の発表(2)：グループ代表者による報告・討議			
成績評価基準	<p>レポート課題における理論的知識の理解、及び指導法の実践的知識の理解により判定し評価する。</p> <p>授業態度 10% 積極的、主体的な姿勢及び意欲により評価する。</p> <p>課題 20% 学習指導案の作成を基準として評価する。</p> <p>その他 20% 授業改善案の発表により評価する。</p> <p>単位認定試験 50% 社会科指導法の基礎理論の習得度を基準とする。</p> <p>各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
使用テキスト等	社会科教育のルネサンス(原田智仁編著、保育出版社)				

授業概要（シラバス）

科目名	算数科指導法 (2) 単位		担当者氏名		<small>磯部 仁 (元小学校校長) 関 暢夫 (元中学校校長) (姫路大学非常勤講師)</small>
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	講義・演習 45時間
授業目標	<p>算数科の目標及び内容の理解とその指導法の検討及び実践的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校算数科の学習指導要領に挙げられた目標及び内容を理解している。 ・小学校算数科における授業の構成を理解し、目標及び評価を意識した学習指導案を作成し、模擬授業において具現化することができる。 ・小学校算数科におけるICT機器を含めた教具、学習形態等を理解し、授業構成に活用しようとしている。 				
授業概要	<p>この授業では、小学校算数科の指導ができる教師を育成するために算数的活動や教具の活用法、学習形態などを考え、指導方法を習得することを目的とする。どのような算数的活動の場を設定するのか、知識・理解の獲得をより確かなものにするためにはどのような指導方法を用いるのかを具体的に検討し、模擬授業において実践的に検証するものである。</p>				
授業 計画 表	1	算数科指導法の到達目標の確認及び現在の算数科指導法の動向の理解			
	2	問題解決的な学習の理解(概要の把握と教育的効果の考察)			
	3	算数的活動の理解(本時目標と評価基準を踏まえた算数的活動の設定方法の理解)			
	4	算数における学習方法の理解(評価基準の考察及び評価場面、方法の設定)			
	5	「数と計算」「量の測定」領域における指導方法の検討			
	6	「図形」「数量関係」領域における指導方法の検討			
	7	指導法の総括(講義全般を通しての考察及び内容の整理)			
	8	算数的指導法の実践における指導上の留意点の検討			
	9	「数と計算」領域(四則計算)における指導方法の実践的な検討			
	10	「数と計算」領域(数の拡張及び性質)における指導方法の実践的な検討			
	11	「量と測定」領域(外延量)における指導方法の実践的な検討			
	12	「量と測定」領域(内包量)における指導方法の実践的な検討			
	13	「図形」領域における指導方法の実践的な検討			
	14	「数量関係」領域における指導方法の実践的な検討			
	15	指導法の総括(模擬授業を通して顕在化された事項の検討)			
成績評価基準	<p>授業態度 10% 積極的、主体的な姿勢及び意欲により評価する。 課題 20% 学習指導案の作成を基準とする。 その他 20% 模擬授業の事後検討会における考察により評価する。 単位認定試験 50% 算数科指導法の基礎理論の習得度を基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
使用テキスト等	小学校学習指導要領解説 算数編(平成29年6月 文部科学省)				

授業概要（シラバス）

科目名	理科指導法		担当者氏名		黒倉 達也 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	問題解決学習、協同学習、実験を取り入れた模擬授業を実施することで、自然現象を探求する科学的姿勢を身に付け、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				
授業概要	「与えられて学ぶ理科」から「教えられるための理科」へ転換する。 「やる気」を起こさせるにはどうすればいいのか、教える側の立場で実践から学ぶ。				
授業計画表	1	学習指導案の書き方～価値ある内容をどんな育ちの子どもたちにどう教えるか～			
	2	問題解決学習と科学的な見方・考え方			
	3	理科の内容、目標、方法			
	4	ICTの活用(パワーポイント、動画、写真等の活用)			
	5	理科における協同学習の方法(話し合いのルールと発表の仕方)			
	6	理科における指導と評価の一体化			
	7	意外性のある実験が入った授業～深い学びに導くには～			
	8	発問と予想の提示の仕方～問題解決学習			
	9	板書の計画の立て方～情報活用・表現スキル			
	10	模擬授業の実践①「比較実験」～物質領域			
	11	模擬授業の実践②「関係付け実験」～エネルギー領域			
	12	模擬授業の実践③「条件制御実験」～エネルギー領域			
	13	模擬授業の実践④「多面的判断、推論実験」～物質領域：			
	14	模擬授業の実践⑤「多面的判断、推論実験」～地球領域			
	15	模擬授業を振り返って～論作文			
成績評価基準	レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定する。 実験レポートの作成により学ぶ姿勢や科学的な思考力、技能を基準に評価する。 模擬授業を実際に行い、パフォーマンスの表現力を基準に評価する。 理科指導法の知識・技能・思考力が身につけていることを基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。				
使用テキスト等	理科指導法(平成21年4月 内山裕之編著 姫路大学教育学部通信教育課程)				

授業概要（シラバス）

科目名	生活科指導法 (2) 単位		担当者氏名		木村 民子 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	生活科の目標・内容及び学習指導理論について理解し、子どもが豊かで生き生きとした生活を実現していくための実践的・具体的な方法について考える。				
授業概要	生活科の目標や内容、主旨とともに全体的な構造を理解する。指導計画作成の意味や学習指導の進め方について理解するとともに、学習指導案を作成し、模擬授業において具現化することができる。ICT機器の活用を含めた教具、具体物を授業構成に生かすことができる。				
授業計画表	1	生活科指導法の実践における指導上の留意点の検討			
	2	「学校と生活」における指導方法			
	3	「学校と生活」における指導方法の実践的な検討			
	4	「家庭と生活」「地域と生活」における指導方法			
	5	「家庭と生活」「地域と生活」における指導方法の実践的な検討			
	6	「公共物や公共施設の利用」における指導方法の実践的な検討			
	7	「季節の変化と生活」における指導方法の実践的な検討			
	8	「動植物の飼育・栽培」における指導方法の実践的な検討			
	9	「生活や出来事の伝えあい」における指導方法の実践的な検討			
	10	「自分の成長」における指導方法の実践的な検討			
	11	模擬授業によって表面化した課題の検討①			
	12	模擬授業によって表面化した課題の検討②			
	13	模擬授業によって表面化した課題の検討③			
	14	模擬授業によって表面化した課題の検討④			
	15	指導法の総括			
成績評価基準	授業態度、課題、単位認定試験				
使用テキスト等	姫路大学『生活科指導法』（戸江茂博・内山裕之・長瀬善雄著） 小学校学習指導要領解説 生活編				

授業概要（シラバス）

科目名	音楽科指導法 (2) 単位		担当者氏名		齋藤 淳子 堀 祐子 鈴木 至門 (姫路大学非常勤講師) 講義・演習
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	子どもが音楽をより深く味わい楽しむことができる授業づくりを考える力を身に付ける。				
授業概要	初等教育における音楽の位置づけを理解する。				
授業計画表	1	オリエンテーション			
	2	事前課題実技試験			
	3	音楽活動を通じた共通共通事項の指導法			
	4	小学校歌唱共通教材 低学年			
	5	小学校歌唱共通教材 中学年			
	6	小学校歌唱共通教材 高学年			
	7	音楽科の指導内容 歌唱			
	8	音楽科の指導内容 器楽			
	9	音楽科の指導内容 音楽づくり			
	10	音楽科の指導内容 鑑賞			
	11	学習指導案作成と評価の方法			
	12	模擬授業①			
	13	模擬授業②			
	14	模擬授業③			
	15	音楽科教育に必要な教師の音楽的能力			
成績評価基準	事前課題実技試験および授業内課題への取り組みを総合的に評価する。				
使用テキスト等	姫路大学『音楽科指導法』 『新しい小学校音楽科の授業をつくる』（ミネルヴァ書房）2018年3月				

授業概要（シラバス）

科目名	図工科指導法 (2) 単位		担当者氏名		坂井 邦晃 (姫路大学非常勤講師) 講義・演習
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	図工科（図画工作）の教育目的と内容を理解し、学習指導要領に基づいて「A表現」「B鑑賞」、新たに導入された「共通事項」も含めて学ぶ。				
授業概要	理論的な面と実践的な教材研究を交えながらポイントを押さえ、学習指導の力を身に付ける。指導案作成、模擬授業もあわせて行い、教材にふれて教える側の目線で考えながら製作を行う。				
授業計画表	1	授業内容の説明			
	2	図工の歴史的変遷			
	3	教科書、学習指導要領等			
	4	学習指導要領について			
	5	造形遊びについて			
	6	演習課題			
	7	絵に表す			
	8	版画技法			
	9	演習課題			
	10	指導計画			
	11	鑑賞について			
	12	評価について			
	13	指導案、模擬授業について			
	14	課題作成			
	15	模擬授業			
成績評価基準	受講態度、実技課題、演習、筆記物等を勘案し、総合的に評価する。				
使用テキスト等	姫路大学『図工科指導法』 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』				

授業概要（シラバス）

科目名	体育科指導法 (2) 単位		担当者氏名		中島 孝子 (姫路大学非常勤講師)
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	学習形態 授業時間数	講義・演習 45時間
授業目標	「よい体育授業」とは何か、その構造と諸条件を理解し、模擬授業と振り返り（授業改善）を通して実践的な力を身に付ける。				
授業概要	「よい体育授業」を行うための基礎理論とその実際を学ぶ。体育科学習指導要領の目標と内容をふまえた上で、体育授業の根幹をなす「教材づくり」と体育指導及び評価について学修し、模擬授業と振り返り（授業改善）を通して実践的な能力を身に付ける。				
授業 計画 表	1	体育理念の多様性			
	2	体育科学習指導要領の歴史的変遷			
	3	教材づくりの基本的視点			
	4	教材と教具について			
	5	教師の教授行動について			
	6	各運動領域の内容について①			
	7	各運動領域の内容について②			
	8	小学校体育科学習指導要領の目標・内容			
	9	「よい体育授業」の基礎的条件と内容的条件			
	10	教材づくりの視点と内容			
	11	指導案の書き方			
	12	模擬授業の意義と効果的な進め方			
	13	模擬授業と振り返り①			
	14	模擬授業と振り返り②			
	15	模擬授業と「よい体育授業」について			
成績評価基準	レポートの課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。演習部分においては、授業態度（主体的に受講しているか）、模擬授業（教材づくりの視点と「よい体育授業」の基礎的条件と内容的条件をふまえた授業づくりができていないか）、単位認定試験により評価する。				
使用テキスト等	姫路大学 『体育科指導法』 『小学校体育科学習指導要領解説 体育編（平成29年7月）』				

授業概要（シラバス）

科目名	家庭科指導法 (2) 単位		担当者氏名		木村 民子 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師) 講義・演習
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	45 時間
授業目標	小学校家庭科における学習目標や学習方法を指導する立場から学び、授業実践を通して指導力と評価力及び教師としての資質・能力の向上に努める。				
授業概要	実践的・体験的な学習を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を習得させることにある。家庭科指導法では、学生の指導力と評価力を高めることを目標として、学習指導案及び評価基準の作成を取り入れ、教育現場で役立ち実践力を高めたい。また、児童が興味関心を持つような学習教材の開発や情報機器の活用など新たな指導方法について取り組む指導者としての資質・能力を身に付ける。				
授業計画表	1	教育課程における家庭科教育の位置づけ及び学習理論			
	2	小学校学習指導要領家庭改訂の趣旨及び指導内容の確認			
	3	家庭科の目標に準拠した年間カリキュラム作成及び検討			
	4	評価基準と評価活動			
	5	指導項目「A家庭・家族計画」の教材開発と観点別評価基準の検討			
	6	指導項目「B衣食住の生活」の教材開発と観点別評価基準の検討			
	7	指導項目「C消費生活・環境」の教材開発と観点別評価基準の検討			
	8	単元構成・授業計画の検討			
	9	「A家族・家庭生活」領域における指導法の実践的検討			
	10	「B衣食住の生活」の食生活領域における指導法の実践的検討			
	11	「B衣食住の生活」の衣生活・住生活領域における指導法の実践的検討			
	12	「C消費生活・環境」領域における指導法の実践的検討			
	13	学習指導計画案作成及び模擬授業の実施①			
	14	学習指導計画案作成及び模擬授業の実施②			
	15	指導法の総括(模擬授業を通して顕在化された事項の検討)			
成績評価基準	レポートの課題 専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 授業態度 積極的、主体的な姿勢及び意欲により評価する。 単位認定試験 家庭科指導法の基礎理論の習得度を基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。				
使用テキスト等	小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年6月 文部科学省) 家庭科指導法(大曲 美佐子著、姫路大学教育学部通信教育課程)				

授業概要（シラバス）

科目名	外国語（英語）指導法 (2) 単位		担当者氏名		坂井 邦晃 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	45 時間
授業目標	小学校における「外国語活動」及び「外国語」の学習・指導・評価に必要な基本的な知識・指導技術を身に付ける。				
授業概要	小学校における外国語教育に関わる背景知識(第二言語習得理論等)・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境(TT、ICTの活用等)について学修するとともに、模擬授業づくりを通して授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。				
授業計画表	1	学校における英語教育導入の経緯と現状、小学校外国語教育の目標			
	2	母語習得と第二言語習得、外国語教育における指導法			
	3	教材・テキストの構成と内容			
	4	指導目標・年間指導計画の立て方			
	5	言語材料と4技能の指導			
	6	教材研究①(歌・チャンツ、ゲーム、絵本の指導)			
	7	教材研究②(コミュニケーション・自己表現活動、プロジェクト活動)			
	8	教材・教具の活用法、評価の意義と評価法			
	9	授業過程と学習指導案の作成			
	10	授業づくり(教材研究、ALTとのTT指導、授業の振り返り)			
	11	授業映像の視聴			
	12	模擬授業①(授業計画、授業準備)			
	13	模擬授業②(授業準備、授業実演)			
	14	模擬授業③(授業実演、授業の振り返り)			
	15	小学校外国語教育の課題と展望			
成績評価基準	<p>レポート課題 専門的知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 授業態度 積極的に外国語指導法を学ぶ姿勢を基準とする。 課題 模擬授業の指導案、授業実演、英語力を総合的に判断する。 単位認定試験 外国語指導法に関する基本的知識が身につけていること 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p>				
使用テキスト等	新編 小学校英語教育法入門(樋口忠彦他編、研究社) We Can!1、We Can!2(平成29年12月 文部科学省)				

授業概要（シラバス）

科目名	学校・学級経営論		担当者氏名		湯本 正明 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する理解を図る。さらに、学校が抱える今日的な課題について理解を深める。				
授業概要	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する理解を図る。さらに、学級経営の歴史や実践例を取り上げるとともに、学級が抱える今日的な課題について理解を深め、学級経営に関わる指導力の獲得を目指す。				
授業計画表	1	学校をめぐるさまざまな変化			
	2	子どもの生活の変化をふまえた指導上の課題			
	3	禁煙の教育政策の動向			
	4	諸外国の教育事情や教育改革の動向			
	5	公教育の目的を実現するための学校経営			
	6	学校評価の基礎理論を含めたP D C Aについて			
	7	教育課程における学級経営の意義			
	8	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働			
	9	地域との連携・協働による学校教育活動の意義			
	10	地域との連携を基盤とする開かれた学校づくりの推進の背景			
	11	学校における危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性			
	12	学校をとりまく新たな安全上の課題とその取り組み			
	13	教師の働きかけと主体性を育む学級集団づくり			
	14	発達障害の児童生徒のいる学級の集団づくり			
	15	生徒指導、特別活動などを通じた学級経営の充実			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	姫路大学『学校・学級経営論』 生徒指導提要（文部科学省・教育図書株式会社）				

授業概要（シラバス）

科目名	特別支援論Ⅰ・Ⅱ (2) 単位		担当者氏名		堀 祐子 (元長岡総合支援学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	さまざまな障がい等により特別な支援を必要とする子どもの特徴および支援についての理解を深める。さらに、障がい児支援の歴史、インクルージョンおよび合理的配慮における保育・教育について理解を深める。				
授業概要	各障がいについてその症状と支援および障がい児支援の歴史、インクルージョン特別な配慮を要する子どもの保育・教育を支える理念および制度について習得し、特別支援を必要とする子どもへの支援に関する基礎力の育成を目指す。				
授 業 計 画 表	1	障がいとは 障がいの概念について			
	2	視覚障がいの理解と支援			
	3	聴覚障がいの理解と支援			
	4	肢体不自由の理解と支援			
	5	知的障がいの理解			
	6	知的障がいの支援			
	7	言語障がいの理解と支援			
	8	発達障がいとは 自閉症スペクトラムの理解			
	9	自閉症スペクトラムの支援			
	10	注意欠陥多動性障害の理解			
	11	注意欠陥多動性障害の支援			
	12	学習障がいの理解と支援			
	13	病弱児の理解と支援			
	14	重症心身障がい児の理解と支援			
	15	インクルージョンおよび特別支援について			
成績評価基準	レポート、科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	姫路大学『特別支援論ⅠⅡ』（小河晶子、西本佳子著）				

授業概要（シラバス）

科目名	道徳教育論 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	講義 30 時間
授業目標	道徳教育の意義や原理を踏まえて、道徳教育及び道徳の時間の目標や内容を理解し、実践的な指導力を身に付ける。 (1) 道徳教育の基本的な考え方や概念を理解する。 (2) 道徳教育の歴史の変遷や法的な根拠を理解する。 (3) 道徳教育の内容、道徳の授業の進め方を理解する。 (4) 道徳的な価値観を高め、人間としての在り方や生き方を探求する。				
授業概要	「道徳」全般に関わる様々なテーマを扱う。道徳教育の今日的意義と重要性、道徳教育の歴史の変遷、道徳教育の法的な根拠、全教育活動における道徳教育、道徳の時間における道徳教育についての基本的な知識を習得し、今後の道徳教育の実践に役立つ。				
授業計画表	1	なぜ道徳教育を学ぶのか(教育の専門家としての心得)			
	2	道徳教育とは何か(本質)			
	3	道徳教育とは何か(今日的な意義と重要性)			
	4	社会の変化と道徳教育			
	5	道徳性の発達(心の成長)			
	6	道徳教育の変遷(明治から戦前までの道徳教育)			
	7	道徳教育の変遷(戦後の道徳教育)			
	8	今日の道徳教育(法的な根拠、道徳教育の実態)			
	9	全教育活動における道徳教育 (道徳教育と道徳の時間の違い)			
	10	道徳の時間の学習指導(内容項目と全体計画)			
	11	道徳の時間における道徳教育(目標、特質)			
	12	道徳の時間における道徳教育(指導過程、指導案作成の留意点)			
	13	道徳の時間における道徳教育(授業づくり、授業の展開の仕方)			
	14	道徳の時間における道徳教育(指導の様々な方法)			
	15	道徳教育の課題(これからの道徳教育の在り方を展望)			
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	自ら学ぶ道徳教育(押谷 由夫編著、保育出版社) 修身教授録(森 信三著、致知出版社) 思想としての道徳・修養(網澤 満昭著、海風社)				

授業概要（シラバス）

科目名	こども理解の理論と方法 (2) 単位		担当者氏名		古川 聖子 (幼稚園教諭)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について述べるができる。子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するうえでの基本的な考え方が説明できる。				
授業概要	子どもを理解するための具体的な方法を学ぶ。子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について学ぶ。				
授業計画表	1	幼児理解の基盤となるもの			
	2	こども理解の意義			
	3	養護と教育の一体化			
	4	遊びの理解と援助のあり方			
	5	「理解」から「援助」につなぐ記録の視点、省察、評価			
	6	職員間の協力体制			
	7	園内研修の考え方			
	8	環境の変化や移行			
	9	保護者との関わりの基本			
	10	子どもの理解に基づく発達援助			
	11	発達の課題に応じた援助と関わり			
	12	特別な配慮を要する子どもへの理解と援助			
	13	発達の連続性と就学の支援			
	14	こども理解のための事例検討			
	15	子どもの理解に基づく保育士の援助			
成績評価基準	受講態度及び試験等により総合的に評価する。				
使用テキスト等	姫路大学『特別支援論Ⅰ』『特別支援論Ⅱ』『発達心理学』 文部科学省「幼児理解と評価」「指導と評価を生かす記録」				

授業概要（シラバス）

科目名	総合的な学習の時間の指導法		担当者氏名		湯本 正明 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。				
授業概要	変化の激しい社会に対応して「生きる力」をはぐくむために自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して行動できるこどもを育成する指導方法について概説する。横断的・総合的な学習、探究的な学習などに主体的、創造的、協同的に取り組むことができるような学習指導の基本的な考え方、目標、育てようとする資質や能力及び態度と内容の関係、評価、校内組織の整備について学修する。				
授業 計画 表	1	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割			
	2	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割			
	3	総合的な学習の時間の構成、目標の趣旨			
	4	総合的な学習の時間の構成、目標の趣旨			
	5	学校において定める目標、育てようとする資質や能力及び態度と内容の関係			
	6	学校において定める目標、育てようとする資質や能力及び態度と内容の関係			
	7	総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセス			
	8	総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセス			
	9	横断的・総合的な学習や探究的な学習の在り方と学習原理			
	10	横断的・総合的な学習や探究的な学習の在り方と学習原理			
	11	総合的な学習の時間の指導計画			
	12	総合的な学習の時間の指導計画			
	13	主体的・対話的で深い学びを実現する単元構成の実際			
	14	主体的・対話的で深い学びを実現する単元構成の実際			
	15	総合的な学習の時間の指導と評価			
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年6月 文部科学省)				

授業概要（シラバス）

科目名	特別活動指導法 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質について理解する。				
授業概要	特別活動の意義及び目的を学習指導要領の中で確認し理解する。さらに、特別活動の歴史的発展をみることで今日の特別活動の意味を明確にする。また、特別活動の学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事などのそれぞれの特質を概説する。現在の学校の病理と特別活動の関連を考察し、特別活動の実践的指導力を身に付けることの重要性を認識できる学修にする。				
授業計画表	1	特別活動の歴史的変遷と教育課程上の意義			
	2	教育課程における特別活動の位置付けと教科等との関連			
	3	特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連			
	4	特別活動における方法原理			
	5	学級活動の内容と指導			
	6	発達段階に応じた話し合い活動の指導について			
	7	特別活動と学級経営との関連			
	8	学校行事の内容と家庭・地域との連携			
	9	児童会活動、クラブ活動の内容と指導			
	10	特別活動における評価の在り方について			
	11	特別活動と教科、総合的な学習の時間との関連			
	12	特別活動と道徳、生徒指導との関連			
	13	特別活動の各活動・学校行事の指導計画の作成について			
	14	学級活動の模擬実践①(学級や学校の生活づくり)			
	15	学級活動の模擬実践②(日常の生活や学習への適応及び健康安全)			
成績評価基準	学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	特別活動指導法(上寺常和著、姫路大学教育学部通信教育課程)				

授業概要（シラバス）

科目名	生徒指導・進路指導		担当者氏名		南雲 茂 佐藤 忠弘 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。				
授業概要	「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学習を進めていく。				
授業計画表	1	生徒指導の意義と教育課程における生徒指導の位置付け			
	2	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動との関連			
	3	集団指導・個別指導の方法原理と学校における生徒指導体制の基本的な考え方			
	4	学校の指導方針や指導計画に基づいた組織的な取り組みについて			
	5	生徒指導に関する法制度			
	6	生徒指導の機能を保障した日々の生徒指導の進め方			
	7	基本的な生活習慣、校内規律などの指導について			
	8	生徒指導上の課題に対する早期発見と効果的な指導について			
	9	インターネットや性に関する課題や児童虐待などの今日的課題の対応について			
	10	進路指導・キャリア教育の意義と教育課程上の位置付け			
	11	就労観・職業観の形成を促す進路指導のあり方			
	12	進路指導・キャリア教育実践の学校体制とカリキュラム・マネジメント			
	13	進路指導における「ガイダンスの機能の充実」			
	14	自己理解と進路指導・キャリア教育			
	15	キャリア・カウンセリングの理論と方法			
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	生徒指導・進路指導(長瀬善雄著、姫路大学教育学部通信教育課程)				

授業概要（シラバス）

科目名	生徒指導の理論と方法		担当者氏名		南雲 茂 佐藤 忠弘 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。				
授業概要	「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生活指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学習を進める。				
授業計画表	1	教育課程における生徒指導の位置づけ			
	2	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義			
	3	集団指導・個別指導の方法原理			
	4	生徒指導体制の基本的な考え方			
	5	教育相談体制の基礎的な考え方			
	6	学校の指導方針や指導計画に基づいた組織的な取り組み			
	7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方			
	8	生徒指導の機能を保障した日々の生徒指導の進め方			
	9	生徒指導に関する法制度			
	10	暴力行為・いじめ・不登校との市絵と指導上の課題に対する指導			
	11	インターネットや性に関する課題や児童虐待などの今日的課題の対応			
	12	学校と家庭・地域・関係機関との連携			
	13	生徒指導における児童生徒理解の重要性			
	14	発達に関する課題と対応			
	15	生徒指導の評価と改善			
成績評価基準	レポートの課題、試験の結果により判定し評価する。				
使用テキスト等	姫路大学『生徒指導・進路指導』（長瀬善雄著） 『生徒指導提要』（文部科学省 教育図書株式会社）				

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習V (1) 単位		担当者氏名		古川 聖子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	こどもが日常的にかかりやすい病気について、具体的な対処法や予防について学ぶ。また、保育中に体調不良になった場合に適切な対応ができるように理解を深めるとともに、病児後保育の対応や緊急時の対応ができるように演習を通して学ぶ。				
授業概要	保育の現場において、病気の早期発見ができる観察力を高める力を養い、遭遇する病気の対応や事故や緊急時における対処方法を学び対応できる力を養う。				
授業計画表	1	身体計測の演習と評価			
	2	観察項目「バイタルサイン」の測定の仕方と評価			
	3	日常の保育に必要な養護技術			
	4	だっこ・おんぶ・食事（調乳）・口腔内の清潔			
	5	排泄の援助とトレーニング（おむつの当て方等）			
	6	身体の清潔保持（沐浴実習）衣服の着脱			
	7	一般的な症状に対する看護			
	8	発熱・泣き方・咳・頭痛・腹痛・嘔吐・便秘・下痢 等			
	9	病気の対応と予防：感染症（ウイルス・細菌性）（食中毒）			
	10	手洗いの必要性和手洗いの実習			
	11	応急処置・救急法 包帯・三角巾を使って演習			
	12	具体的な症状の応急処置			
	13	人形をつかって一次蘇生法の演習 救急車の呼び方 等			
	14	保育施設での安全管理対策と地域との連携と協働			
	15	まとめ（振り返り）			
成績評価基準	学びの態度や姿勢、単位認定試験の理解度を基準とする。				
使用テキスト等	「こどもの保健」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

授業概要（シラバス）

科目名	介護体験実習 (1) 単位		担当者氏名		中村 直美 (姫路大学非常勤講師)
学習形態	実習				
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	通年	授業時間数	60 時間
授業目標	平成10年4月から施行された『小学校および中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律』により義務付けられ、「教員が個人の尊厳および社会連帯の観点から、社会福祉福祉施設等（保育所を除く社会福祉施設と特別支援学校）における体験を行うことを目的とする。				
授業概要	社会福祉施設5日間と特別支援学校2日間の計7日間 社会福祉施設は一日おおむね6時間、特別支援学校は一日原則8時間の実習を行う。				
授業計画表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	介護等体験記録を提出のこと				
使用テキスト等	姫路大学 介護体験実習・活動資料・記録				

授業概要（シラバス）

科目名	介護体験ガイダンス (1) 単位		担当者氏名		中村 直美 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 3年	開講期	通年	授業時間数	15 時間
授業目標	介護等体験実習に備えて社会福祉施設の概要等を学び、基本的な介護技術を身に付ける。				
授業概要	介護等体験実習に関する事務手続き、社会福祉施設の概要、支援の在り方、基本的な介護技術を学ぶ。				
授業計画表	1	介護等体験実習の概要			
	2	施設への書類提出			
	3	実習受け入れ先の主な専門職者			
	4	介護等体験中の態度およびマナーについて			
	5	感染防止について			
	6	地域ボランティアとの関係			
	7	介護技術 ボディーメカニクスの基本			
	8	介護技術 ベッドメイキング			
	9	介護技術 車椅子の操作			
	10	介護技術 着脱介助			
	11	介護技術 食事介助			
	12	レクリエーションの計画			
	13	レクリエーションの実践			
	14	記録の工夫			
	15	学生体験記から学ぶ			
成績評価基準	授業に臨む姿勢、単位終了試験から評価する				
使用テキスト等	姫路大学 介護体験実習・活動資料・記録				

授業概要（シラバス）

科目名	公衆衛生学 I		担当者氏名		佐藤 博 (姫路大学非常勤講師)
	(2) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	健康の個人レベルの課題について、健康と疾病、公衆衛生学の概念、健康の維持・増進について学ぶことを目標とする。				
授業概要	公衆衛生学は、「健康」を個人と集団レベルで考える学問である。公衆衛生学 I では個人レベルの課題を中心として、健康と疾病、公衆衛生活動の概念を学びつつ、健康の維持・増進に関わる諸問題について、保健統計や諸外国との比較、栄養の考え方なども含めて学習する。				
授業計画表	1	公衆衛生の概念			
	2	健康と環境			
	3	健康の指標			
	4	感染症とその予防			
	5	食品保健と栄養			
	6	生活環境の保全			
	7	医療・介護の保証制度			
	8	地域保健活動			
	9	母子保健			
	10	学校保健			
	11	生活習慣病			
	12	難病対策			
	13	健康教育とヘルスプロモーション			
	14	精神保健福祉			
	15	産業保健			
成績評価基準	定期試験 70% 授業態度 30%				
使用テキスト等	「公衆衛生学 I」 姫路大学				

授業概要（シラバス）

科目名	公衆衛生学Ⅱ (2) 単位		担当者氏名		佐藤 博 (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	公衆衛生学の基本である疫学から環境問題、衛生法規など幅広い知識の習得を目的とする。				
授業概要	集団としての公衆衛生学を学習する。まず基本である「疫学」の意義や手法について学び、さらに地球規模から身の回りの問題までの環境問題やその維持・改善に関する学習、労働に関連する産業保健、保健管理システムとしての地域・国際保健、衛生法規など広い視野での学習を目指す。				
授業計画表	1	社会保障制度と医療保険制度①			
	2	社会保障制度と医療保険制度②			
	3	人口統計と保健統計①			
	4	人口統計と保健統計②			
	5	人口統計と保健統計③			
	6	環境保健①			
	7	環境保健②			
	8	食品の安全と食中毒①			
	9	食品の安全と食中毒②			
	10	疫学①			
	11	疫学②			
	12	疫学③			
	13	疫学④			
	14	疫学⑤			
	15	まとめ			
成績評価基準	定期試験 70% 授業態度 30%				
使用テキスト等	「公衆衛生学Ⅱ」 姫路大学				

授業概要（シラバス）

科目名	学校保健 (2) 単位		担当者氏名		福嶋 栄子 (元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	学校における保健活動について幅広い観点から検討考察し知見を深めることを目標とする。				
授業概要	学校保健では、学校という教育の場におけるすべての保健活動について学ぶ。児童生徒はもとより、教職員を対象とした健康上の配慮と健康に関する教育を包括する。児童・生徒の健康とその確保に関する理論を探求するとともに、それを実際に保持増進するための実施・方法を学校保健安全法及び保健教育面についての学習指導要領を中心に検討考察する。				
授業計画表	1	学校保健の概要			
	2	学校保健の組織活動			
	3	保健学習・保健指導			
	4	児童・生徒の発育発達			
	5	児童・生徒の健康状態の把握			
	6	児童・生徒における疾病・異常①			
	7	児童・生徒における疾病・異常②			
	8	学校の危機管理			
	9	学校環境衛生			
	10	精神の健康			
	11	学校における性教育			
	12	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育			
	13	学校安全			
	14	学校給食			
	15	まとめ			
成績評価基準	試験70% 課題20% 関心・意欲・態度10% で評価する				
使用テキスト等	「学校保健」姫路大学				

授業概要（シラバス）

科目名	養護概説 (2) 単位		担当者氏名		福嶋 栄子 (元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	45時間
授業目標	養護教諭の役割を歴史的変遷から理解し、学校保健活動の推進に携わる力を身に付けることを目的とする。				
授業概要	養護の本質や概念や養護教諭の食の歴史的変遷を学ぶ中で、養護教諭の専門職としての職務と教育における役割について理解する。また、職務の基本と実際について学ぶ中で、学校保健活動の推進における中核的役割を果たすべき力やこどもを取り巻く健康課題とその解決の支援について考える。さらに、養護教諭としての基礎的・応用的知識・技術を学び科学的な理論と実践の中で専門職としての自覚と研究的な資質・力量を身につける。				
授業計画表	1	養護の本質と概念			
	2	養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷			
	3	教育に果たす養護教諭の役割			
	4	養護教諭の職務に必要な基礎知識			
	5	養護教諭に必要な資質・能力・専門的機能			
	6	養護教諭の職務推進の基本① 保健室の経営と役割			
	7	養護教諭の職務推進の基本② 学校保健情報・健康実態の把握			
	8	保健管理① 健康診断			
	9	保健管理② 健康観察・健康相談			
	10	保健管理③ 疾病予防・感染症			
	11	保健管理④ 救急処置活動・危機管理			
	12	保健教育（保健学習・保健指導）			
	13	健康相談活動			
	14	学校環境衛生活動・学校安全			
	15	保健組織活動			
成績評価基準	試験70% 課題20% 関心・意欲・態度10% で評価する				
使用テキスト等	「新養護概説（第10版）」采女智津恵編集委員代表、少年写真新聞社2018年				

授業概要（シラバス）

科目名	健康相談活動 (2) 単位		担当者氏名		福嶋 栄子 (元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	健康について理解を深め、その保持・増進の方法を学ぶ。また健康相談活動への理解を進めることを目的とする。				
授業概要	「健康」という概念について理解を深めたうえで、心の健康を含む健康の成立条件、疾病の発生要因を明らかにし、健康の保持・増進の方法を追求する。特に、児童・生徒・学生および教職員に対して広く健康相談活動が可能になるような過程を理解する。				
授業計画表	1	教育における養護教諭の役割			
	2	養護教諭の執務と健康相談活動			
	3	児童生徒の健康問題の現状と課題			
	4	健康相談活動を支える諸理論について			
	5	健康相談活動の進め方			
	6	健康相談活動におけるヘルスアセスメント・基本的なカウンセリング能力と技法			
	7	こどものヘルスニーズの理解			
	8	健康相談活動の実際			
	9	健康相談活動の実際 危機介入について			
	10	健康相談活動の実際 児童虐待について			
	11	健康相談活動の実際 慢性疾患を抱える子どもの支援			
	12	健康相談活動における連携			
	13	健康相談活動の記録と事例検討			
	14	事例から学ぶ健康相談活動の実際			
	15	健康相談活動の評価			
成績評価基準	試験70% 課題20% 関心・意欲・態度10% で評価する				
使用テキスト等	「健康相談活動」 姫路大学				

授業概要（シラバス）

科目名	人体機能学 (2) 単位		担当者氏名		三宅 仁 (姫路大学非常勤講師) 渡邊 壽子 (看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	人体の構造と機能に関する基礎的な知見を深め、疾病や病的所見との相互関係を深めることを目的とする。				
授業概要	人体の成り立ちを病態生理学の視点から、血液、循環、呼吸、消化と吸収、代謝と体温や排泄、ホルモン、筋収縮、神経、感覚などについて、「人体構造学」と互いに連携を持ちながら、人体の構造と機能に関する基礎的な知見とヒトの様々な疾病や病的所見との相互関係を理解する。				
授業計画表	1	体液とその循環① 細胞内液、間質液、血漿			
	2	体液とその循環② 水分出納			
	3	体液とその循環③ 血圧			
	4	体液とその循環④ 心臓収縮の機構			
	5	体液とその循環⑤ 脈拍			
	6	内部環境の恒常性の維持①			
	7	内部環境の恒常性の維持②			
	8	内部環境の恒常性の維持③			
	9	内部環境の恒常性の維持④			
	10	調節機構① 自律神経による内部環境の保持			
	11	調節機構② ホルモンによる内部環境の維持			
	12	調節機構③ ストレス			
	13	からだの不思議① 呼吸機能、胎児循環、自律神経系			
	14	からだの不思議② がん、心臓のはたらき、免疫のしくみ			
	15	からだの不思議③ 脾臓・膵臓の働き、胆道系、記憶			
成績評価基準	小テスト50% 課題の提出50%				
使用テキスト等	「人体機能学・人体構造学」姫路大学				

授業概要（シラバス）

科目名	人体構造学 (2) 単位		担当者氏名		三宅 七 (姫路大学非常勤講師) 渡邊 壽子 (看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	人体機能学と互いに連携を持ちながら人体の構造と機能に関する基礎的な知見とヒトの様々な疾病や病理的所見との相互関係を理解することを目的とする。				
授業概要	人体の構造の全体像を機能形態学の視点から、筋・骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系などについて、「人体機能学」と互いに連携を持ちながら、人体の構造と機能に関する基礎的な知見とヒトの様々な疾病や病理的所見との相互関係を理解する。				
授業計画表	1	解剖学総論			
	2	人体を構成する細胞と組織			
	3	皮膚と膜			
	4	血液の成分			
	5	骨・関節			
	6	筋系			
	7	消化器系			
	8	呼吸器系			
	9	循環器系			
	10	泌尿器系			
	11	生殖器系			
	12	神経系① 神経系の全体像			
	13	神経系② 中枢神経・末梢神経			
	14	感覚器系			
	15	まとめとおさらい			
成績評価基準	小テスト50% 課題の提出50%				
使用テキスト等	「人体機能学・人体構造学」姫路大学				

授業概要（シラバス）

科目名	薬理学 (2) 単位		担当者氏名		渡邊 壽子 (看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	薬剤の作用についてのメカニズムを学び、疾患との関連性を理解する。また薬剤の利用に関わる力を身に付けることを目的とする。				
授業概要	薬剤の相互作用や副作用が発現するメカニズムを理解し、疾患と治療剤との関連性について理解する。また薬の添付文書の読み方、医療品情報、疾患と治療薬などの情報の入手方法を学び実践で利用できるようにする。				
授業計画表	1	薬理学総論① 医療における薬物、ライフサイクルと薬物			
	2	薬理学総論② 薬理学、薬物の相互作用			
	3	薬理学総論③ 薬物の保管・管理			
	4	炎症			
	5	腫瘍			
	6	代謝・内分泌の異常による疾患① 糖尿病、高脂血症など			
	7	代謝・内分泌の異常による疾患② 痛風、骨粗しょう症など			
	8	脳・神経の疾患			
	9	精神の疾患			
	10	血液の疾患			
	11	循環器の疾患			
	12	腎臓・泌尿器の疾患			
	13	消化器の疾患			
	14	呼吸器の疾患			
	15	感覚器の疾患			
成績評価基準	定期試験100%で評価する				
使用テキスト等	「疾患の成り立ちと回復の促進 薬理学」中嶋敏勝 編著				

授業概要（シラバス）

科目名	看護学 I (2) 単位		担当者氏名		中村 直美 (看護師) (姫路大学非常勤講師)
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	講義・演習 45 時間
授業目標	養護・看護の目的、対象、役割と機能、支援活動の概要を理解し、看護・養護の概念について説明できる。養護教諭の行う養護実践のプロセスの流れと構成要素について説明できる。学校看護、養護における養護教諭に必要とされる倫理について説明できる。学校看護における連携の在り方について説明できる。				
授業概要	看護、養護とは何かを理解し、生涯にわたる健康の保持増進、疾病予防、疾病の早期発見、健康回復に関するニーズに対応できる看護的能力の力量形成のための基本的知識を習得することを目的として、学校看護の場・対象、役割と機能、関連法規、看護実践のプロセスの流れおよび構成要素などについて学習する。				
授業 計画 表	1	ガイダンス 授業概要			
	2	看護の概念			
	3	養護の概念			
	4	健康観の変遷、健康と疾病、ウェルネス			
	5	ライフサイクルと発達課題			
	6	現代のこどもの特徴、子どもの健康実態と課題			
	7	家族システムと家族の発達支援			
	8	学校看護における連携			
	9	学校保健にかかわる専門職			
	10	子どもの尊厳に基づく看護・養護			
	11	学校看護・養護における倫理			
	12	養護教諭の行う養護実践のプロセス			
	13	養護実践のプロセスにおけるスクリーニングとアセスメント			
	14	養護診断、対応・救急、保健指導、記録と評価			
	15	まとめ			
成績評価基準	課題提出、小テスト				
使用テキスト等	「養護教諭、看護師、保健師のための学校保健」岡田加奈子ほか著 東山書房				

授業概要（シラバス）

科目名	看護学Ⅱ		担当者氏名		中村 直美（看護師） （姫路大学非常勤講師）
	（ 2 ）単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	45 時間
授業目標	子どもの心身の健康課題に対する的確な判断と応急処置等の対処法について説明できる。健康障害とその影響について理解し、ストレスと適応について説明できる。子どもの慢性疾患を理解し、支援について説明できる。 教職員・保護者・地域の関係機関との連携の必要性とその具体的方法を説明できる。				
授業概要	看護学Ⅰで習得した学校看護に関する基本的知識を基盤に、急性・慢性疾患に関する基礎知識やさまざまな疾患をもつ子どもを理解し、子どもとその家族への支援および教職員・保護者・地域の関係機関との連携の必要性、その具体的な方法について学習する。				
授業計画表	1	ガイダンス 授業計画			
	2	健康課題のある子どもへのセルフケア			
	3	慢性腎疾患のこどもへの理解と支援			
	4	気管支喘息のこどもの理解と支援			
	5	アレルギー疾患のこどもの理解と支援			
	6	先天性心疾患のこどもの理解と支援			
	7	代謝疾患をもつ子どもの理解と支援			
	8	腎疾患を持つ子どもの理解と支援			
	9	脳・神経疾患をもつ子どもの理解と支援			
	10	入院・手術を受ける子どもと家族の支援			
	11	医療的ケア			
	12	排泄支援			
	13	呼吸管理と支援			
	14	水分・薬剤の管理			
	15	まとめ			
成績評価基準	授業中の小テスト、実技、課題レポート、科目試験				
使用テキスト等	「養護教諭、看護師、保健師のための学校保健」岡田加奈子ほか著 東山書房				

授業概要（シラバス）

科目名	看護演習		担当者氏名		中村 直美（看護師） （姫路大学非常勤講師）
	（ 2 ）単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	通年	授業時間数	60 時間
授業目標	看護援助における共通する基本技術・日常生活の援助技術の基本を理解し実施できる。健康上智を把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得し実施できる。応急処置の基本的な看護技術を習得し実施できる。教育現場における医療的ケアを理解し実施できる。				
授業概要	健康観察の方法や生命兆候を観察するための知識と技術を習得し、対象者の健康課題をアセスメントする技術について講義と実技を行い、学校現場における応急処置の技術や看護実習に必要な看護技術の理解と習得を行う。				
授業計画表	1	ガイダンス 授業計画			
	2	ヘルスアセスメントとそのプロセス			
	3	コミュニケーション技術			
	4	対人関係の振り返り			
	5	バイタルサインの観察			
	6	フィジカルアセスメント			
	7	環境の意義、保健室の環境整備			
	8	ベッドメイキング			
	9	手洗い、手袋の装着、機械・器具の取り扱い			
	10	感染症発症時の対応			
	11	危険予知訓練			
	12	体位の種類と身体への影響			
	13	ボディメカニクスの活用			
	14	応急手当			
	15	学校における救急処置			
成績評価基準	小テスト、実技試験				
使用テキスト等	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 メディカル出版				

授業概要（シラバス）

科目名	臨床医科学 I (2) 単位		担当者氏名		三宅 仁 (姫路大学非常勤講師) 波邊 壽子 (看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	病理学に関する専門用語について説明できる。 病気が発生する基本概念について説明できる。				
授業概要	臨床医科学 I は病理学総論にあたり、病気が発生する基本概念である炎症・循環障害・腫瘍・感染症・代謝障害などについて学習する。				
授業計画表	1	看護と病理学			
	2	病気の原因			
	3	細胞の損傷とその原因			
	4	細胞の修復と創傷治癒			
	5	循環障害① 浮腫、充血とうっ血、出血と止血、血栓症、虚血と梗塞			
	6	循環障害② ショック、高血圧症			
	7	炎症と免疫① 炎症とその分類、免疫と免疫不全			
	8	炎症と免疫② アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療			
	9	感染症① 感染と宿主の防衛機構、主な病原体と感染症			
	10	感染症② 感染症の治療と予防			
	11	代謝障害 資質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖尿病			
	12	老化と死 個体の老化と老年症候群、加齢に伴う諸臓器の変化			
	13	先天異常と遺伝子異常			
	14	腫瘍			
	15	腫瘍の疫学的特徴			
成績評価基準	レポート課題、単位認定試験の結果を総合して評価する				
使用テキスト等	「病理学 疾病のなりたちと回復の促進①」大橋健一、谷澤哲也 医学書院 「カラーで学べる病理学 第4版」ヌーヴェルヒロカワ				

授業概要（シラバス）

科目名	臨床医科学Ⅱ (2) 単位		担当者氏名		三宅 七 (姫路大学非常勤講師) 並邊 美子 (看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	病理学各論にあたり、原因・治療等についての知見を深めことを目標とする。				
授業概要	病理学各論にあたり、各器官に発生する病気ごとに原因、病気の成り立ち、診断・治療について学習する。				
授業計画表	1	循環器系の疾患① 血管の構造、血管の疾患			
	2	循環器系の疾患② 心臓の構造、心臓の疾患			
	3	血液・造血器系の疾患 骨髄の機能と血球の分化・成熟			
	4	呼吸器系の構造と疾患			
	5	呼吸器系の疾患 気管・気管支・肺の構造と機能			
	6	消化器系の疾患 口腔、食堂、胃の構造と疾患			
	7	消化器系の疾患 肝臓、胆管・胆嚢の構造と疾患			
	8	腎・泌尿器系の疾患			
	9	生殖器系および乳腺の疾患			
	10	内分泌系の疾患			
	11	脳・神経・筋肉系の疾患①			
	12	脳・神経・筋肉系の疾患②			
	13	骨・関節系の疾患			
	14	眼・耳・皮膚の疾患			
	15	病理診断の実際			
成績評価基準	レポート課題、単位認定試験の結果を総合して評価する				
使用テキスト等	「病理学 疾病のなりたちと回復の促進①」大橋健一、谷澤哲也 医学書院				

授業概要（シラバス）

科目名	教職実践演習（養護）		担当者氏名		福嶋 栄子 （元養護教諭） （総務大学非常勤講師）
	（ 1 ）単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	授業時間数	45時間
授業目標	これまでの学修や養護実習での学びを統合させ、養護教諭の具体的役割の自覚を強くする。学校現場で児童生徒に対応していける資質、能力および養護教諭としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、連携力を備え、それを確かなものとするために自己課題を明確にすることができる。				
授業概要	子ども理解や健康問題の解決のための支援、保健管理、保健教育等、養護教諭としての確かな実践力、指導力の重要性を認識し、備えることができるよう学ぶ。				
授業計画表	1	「教職実践演習」を学ぶ意義			
	2	履修カルテによる評価			
	3	養護実習の評価から自己の学修課題の明確化			
	4	7つの指標と自己課題の分析			
	5	養護についての理解			
	6	養護教諭の職務と求められる能力			
	7	学校保健活動の推進			
	8	養護教諭に求められる社会性			
	9	こども理解、こどもの現代的健康課題実態の把握			
	10	健康観察・健康相談活動の実際			
	11	保健教育の実際			
	12	保健学習および保健指導の模擬授業			
	13	学校における看護的技術			
	14	学校における応急処置			
	15	学習の振り返り			
成績評価基準	授業課題、最終試験により評価する				
使用テキスト等	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 メディカル出版				

授業概要（シラバス）

科目名	臨床実習 (1) 単位		担当者氏名		福嶋 栄子 (元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	実習 45時間
授業目標	対象者の特性について、対象者のおかれた療育環境を理解する。 対象者の健康段階や発育・発達段階、その場に応じた看護を学ぶ。 医療機関における他職種との連携・協働の実際を知り、将来、養護教諭として 連携の必要性、重要性について学ぶ。				
授業概要	医療機関において看護師とともに援助場面に参加し、看護を必要とする対象の 発達段階や健康障害・健康の段階に応じた看護の実践を体験する。加えて、 多職種の役割と連携の必要性を理解し、将来、養護教諭として医療機関と 連携することの重要性を学ぶ。				
授業 計画 表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習先より大学指定の成績評価票によって評価を受ける。				
使用テキスト等	姫路大学「臨床実習実習簿」				

授業概要（シラバス）

科目名	臨床実習事前事後指導 (4) 単位		担当者氏名		橘嶋 栄子 (元看護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	臨床実習の全体像を把握するとともに臨床実習目標の達成のための行動目標 および実習記録の活用について具体的に学習する。				
授業概要	臨床実習の学びにつなげるための事前学習および実習の準備をする。				
授業 計画 表	1	オリエンテーション			
	2	看護学臨床実習の概要			
	3	社会における病院の役割と機能			
	4	病院における感染予防対策			
	5	実習内容および記録			
	6	実習事後レポートの理解と活用			
	7	実習記録の書き方①			
	8	実習記録の書き方②			
	9	ベッドメイキング			
	10	応急手当			
	11	実習先のオリエンテーション			
	12	病院の概要			
	13	実習スケジュールの把握と予備学習			
	14	実習の心構え、留意点			
	15	授業の総括			
成績評価基準	受講態度、提出物等により総合的に評価する				
使用テキスト等	姫路大学「臨床実習実習簿」 ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術 メディカル出版				

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習（小学校） (4) 単位		担当者氏名		池山 康栄 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	実習 180 時間
授業目標	教育活動の実際につれ、教職の在り方についての認識を深める。 児童と共に活動することを通して児童理解に努める。 教師としての専門的知識や技能を習得すると共に、今後の課題を明確にする。				
授業概要	学校の管理運営について、その概要を理解する。 学級経営について、基本的な内容を知る。 教育課程の内容や役割について理解を深める。 学習指導案の理解を深め、実際に指導に活用できるようにする。				
授業 計画表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習先より大学指定の成績評価票によって評価を受ける。				
使用テキスト等	姫路大学テキスト「教育実習事前・事後指導（小学校）」 姫路大学「教育実習実習簿」				

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習事前事後指導（小学校）		担当者氏名		池山 康栄 (元小学校校長) (姫路大学非常勤講師)
	(1) 単位		学習形態		
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	小学校における教育実習に対する心構えをもち教育実習の内容を理解する。教育環境の整備、授業の準備、学習指導の方法等、教育活動、学習指導のありかたの理解をする。小学校教師の役割と責任を理解し、教育活動の実践的な認識を深める。教職生活を体験することにより教職志望を確認し教育研究の意欲を高める。				
授業概要	小学校教育実習に向けて、その心構えの形成、教育実習の目的の理解、実践的指導力の向上及び教育実習後の教育実践体験の省察が目標となる。				
授業計画表	1	教育実習の準備と心構え			
	2	実習校への対応 事務手続き			
	3	教師と児童の関係 児童同士の関係			
	4	教師の児童への働きかけ			
	5	学習指導の在り方			
	6	学級経営			
	7	実習記録の記入、活用			
	8	授業参観、観察・記録の方法			
	9	児童理解の方法			
	10	学習指導と児童理解			
	11	特別支援教育と児童理解			
	12	教材等の学習指導案の検討			
	13	学習の導入、授業形態、発問、板書			
	14	模擬授業			
	15	教育実習後の取り組みについて			
成績評価基準	レポート、模擬授業、授業への関心・意欲・態度をもとに総合的に評価する。				
使用テキスト等	姫路大学 『教育実習事前・事後指導（小学校）』 長瀬善雄編著『教育実践の理論と方法』教育出版、2017				

授業概要（シラバス）

科目名	養護実習 (4) 単位		担当者氏名		福嶋 栄子 (元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	学習形態 授業時間数	実習 180時間
授業目標	学校という教育現場について理解する。 保健室、養護教諭の役割について理解する。 養護教諭の職務について理解する。 養護教諭の職務を体験し、必要な能力を養う。 養護教諭への意欲を高めると共に、必要な資質、能力について理解する。				
授業概要	学校教育の概要や学校保健活動について学ぶ。 保健室の理解と実践（健康観察、応急処置、保健室経営、定期健康診断、 養護教諭執務計画、健康相談活動、感染症の予防・対策） 保健教育、保健指導の計画と実践				
授業計画表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習先より大学指定の成績評価票によって評価を受ける。				
使用テキスト等	姫路大学テキスト「養護実習事前・事後指導」 姫路大学「養護実習実習簿」				

授業概要（シラバス）

科目名	養護実習事前・事後指導 (1) 単位		担当者氏名		福岡 栄子 (元養護教諭) (姫路大学非常勤講師)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	養護実習のための十分な準備を行うことができる 養護実習後、自身の実習を振り返り、今後の課題を明確にして養護教諭について理解を深めることができる				
授業概要	養護実習に向けた実践的な学習を通して、養護教諭の職務や専門性について理解する				
授業計画表	1	養護実習の概要			
	2	養護実習の方法			
	3	実習の目的、意義			
	4	実習目標の設定			
	5	養護教諭、養護教諭養成課程についての概要と変遷			
	6	養護教諭・学校保健をめぐる法制度			
	7	学校教育、学校保健の基礎知識			
	8	指導案の作成			
	9	指導案の実践			
	10	実習記録の方法			
	11	実習記録の活用			
	12	実習生として守るべきマナーと倫理			
	13	学習の導入、授業形態、発問、板書			
	14	模擬授業			
	15	養護実習後の取り組みについて			
成績評価基準	授業への参加度、提出物、レポートの結果を総合して評価する。				
使用テキスト等	姫路『養護実習事前・事後指導』 柳園順子編著『よくわかる！教職エクササイズ⑧ 学校保健』 ミネルヴァ書房 2019年				

授業概要（シラバス）

科目名	地域ボランティア (1) 単位	担当者氏名	加藤 武 (姫路大学非常勤講師)	
学科 開講学年	こども未来学科 4年	開講期	通年	授業時間数 45 時間
授業目標	地域の学童保育や社会福祉活動などへのボランティア活動を通して、地域貢献と学生の資質向上に成果をあげることを目的に、教育の厳しさや喜びを体験し教職を目指すものとしての自覚を高め、実社会のなかでどのように人間関係を作り上げていけばいいのかを実践的に学ぶ。			
授業概要	活動先を選定し、45時間分の活動を計画し、活動先から内諾をいただく。活動後は、「地域ボランティア活動記録書」に記入をする。			
授業計画表	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
成績評価基準	45時間分の活動と記録の提出をもって活動先から「活動報告書②」を記入していただき、その内容から総合評価をする。			
使用テキスト等	姫路大学「地域ボランティア活動記録」			